

国道10号
別大拡幅

平成23年9月26日

国土交通省 九州地方整備局

目 次

1. 事業の概要	道路-3- 1
(1) 国道10号の概要	道路-3- 1
(2) 別大拡幅の概要	道路-3- 2
2. 事業の必要性	道路-3- 4
(1) 事業を巡る社会情勢等の変化	道路-3- 4
(2) 事業の効果・必要性	道路-3-13
(3) 事業の投資効果	道路-3-22
(4) 事業の進捗状況	道路-3-23
3. 事業の進捗の見込み	道路-3-25
(1) 今後の事業の見通し	道路-3-25
(2) 地域の協力体制	道路-3-25
(3) 環境・景観への取り組み状況	道路-3-26
4. コスト縮減や代替案立案等	道路-3-27
5. 対応方針（原案）	道路-3-28
巻末資料	道路-3-29

1. 事業の概要

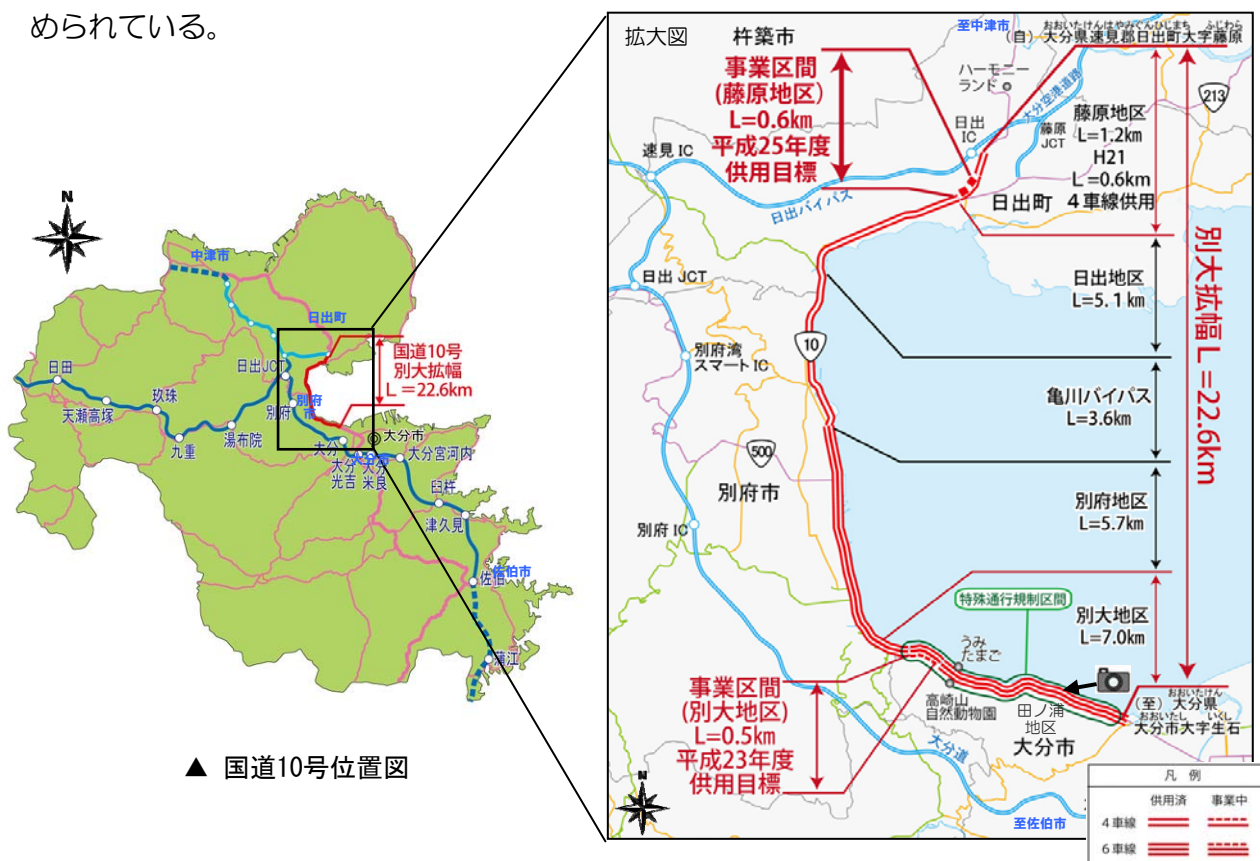
(1) 国道10号の概要

国道10号は、福岡県北九州市から大分県大分市、宮崎県宮崎市を經由して、鹿児島県鹿児島市に至る延長約450kmの重要な幹線道路で、九州で最も長い国道である。本路線は、東九州を南北に縦断する主要幹線道路であり、社会、経済、文化、観光等の様々な面で交流を支える重要な役割を果たしている。

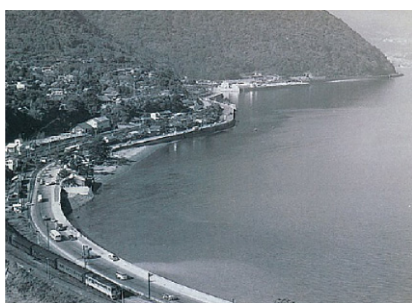
さらに、本路線は、国際観光文化都市である別府市と、東九州地域の中心都市でかつ県都の大分市を結ぶ重要な路線であり、別府から大分間については古くから「別大国道」と呼ばれ地域のシンボル道路でもある。

しかしながら、交通量はここ数年は横ばい傾向にあるものの、朝夕のピーク時をはじめ交通渋滞が慢性化している上に、交通事故や災害発生時に交通が遮断されるといった課題を抱えている。

また、並行する大分自動車道において、濃霧等による通行止めが頻繁に発生しており、代替路線として重要な役割を担うとともに、交通安全を確保し、交通の円滑化を図る道路整備が求められている。



▲ 国道10号位置図



▲ 別大拡幅 別府地区（昭和30年代の田ノ浦地区）
 当時は、国道に平行して電車と鉄道が走り、片側1車線の、少し波が荒いと冠水する道路で、別大国道と呼ばれ大分と別府をつなぐ大切な国道であった。



▲ 別大拡幅 別府地区（現在の田ノ浦地区）
 現在は、交通量に合わせ別大国道を海側に6車に拡幅し、交差点改良もされ、田ノ浦地区や海岸（公園）にもスムーズに進入できるようになった。

(2) 国道10号別大拡幅の概要

1) 概要

別大拡幅は国道10号の円滑な走行性の確保や交通安全性の向上等に寄与する事業である。

本路線は、完成6車線（一部4車線）の現道拡幅事業であり、これまでにL=22.6kmのうち、21.5kmが供用済みである。



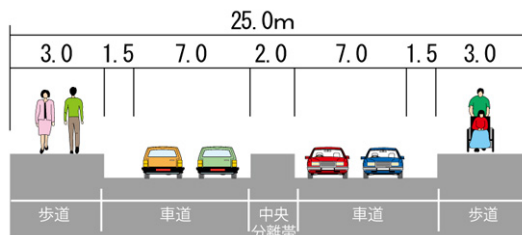
2) 計画諸元

▼ 計画諸元

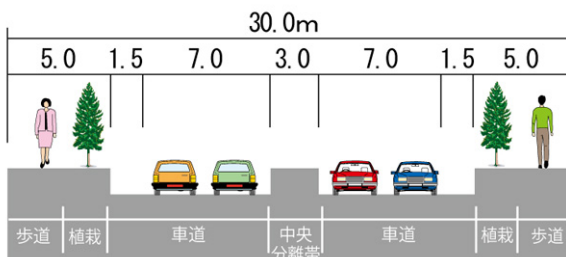
区 間	起 点	(自) 大分県速見郡日出町大字藤原				
	終 点	(至) 大分県大分市大字生石				
計 画 延 長	総延長	L=22.6km				
		藤原地区	1.2km	日出地区	5.1km	
		亀川バイパス	3.6km	別府地区	5.7km	
		別大地区	7.0km			
幅 員		W=25.0m (4車線：藤原地区、日出地区)				
		W=30.0m (4車線：亀川バイパス、6車線：別府地区)				
		W=40.0m, 33.0m (6車線：別大地区)				
構 造 規 格	種級区分	第4種第1級：藤原地区～別府地区 第3種第1級：別大地区				
	設計速度	V=60km/h：藤原地区～別府地区 V=80km/h：別大地区				
計画交通量(H42)	①	22,600台/日	②	86,100台/日	③	70,200台/日

3) 標準横断面 (単位:m)

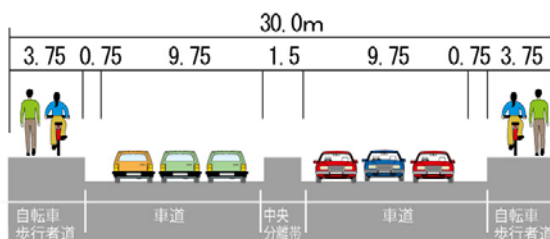
藤原・日出地区 (第4種第1級 設計速度60km/h)



亀川バイパス (第4種第1級 設計速度60km/h)



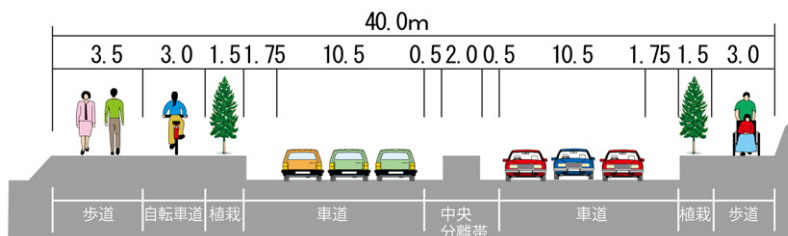
別府地区 (第4種第1級 設計速度60km/h)



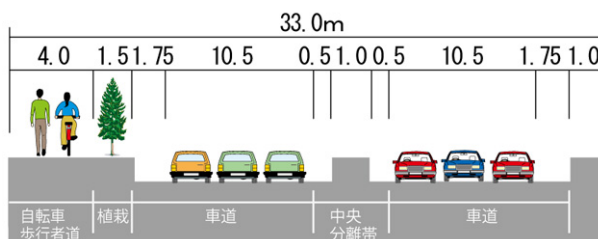
別大地区 (第3種第1級 設計速度80km/h)



【東別府、うみたまご、マリパレス、田ノ浦・仏崎山、白木・西大分地区】



【高崎山地区】



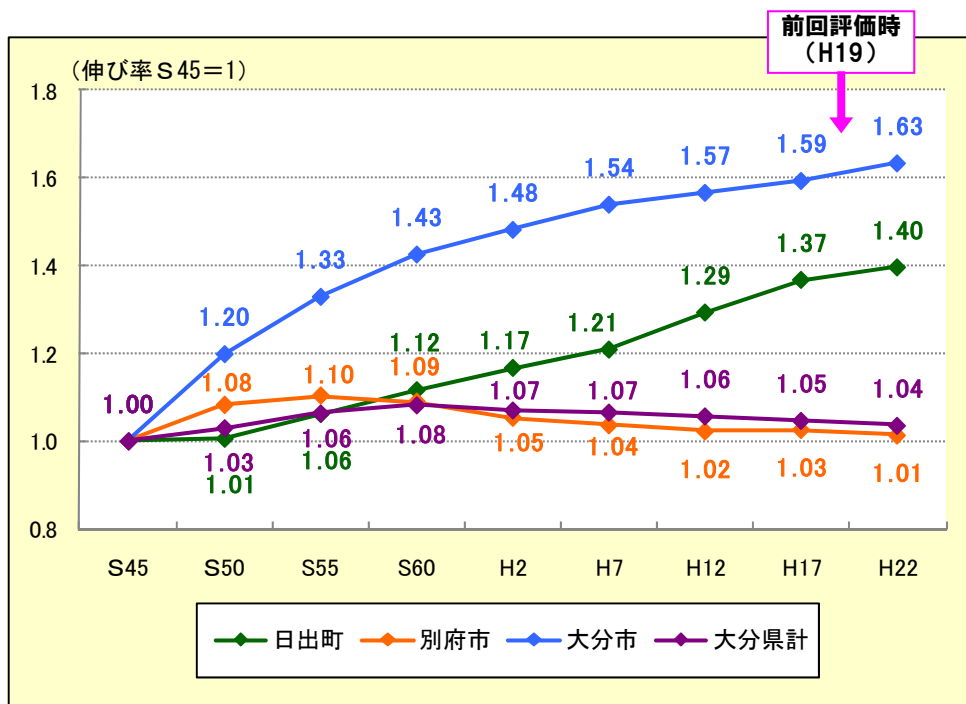
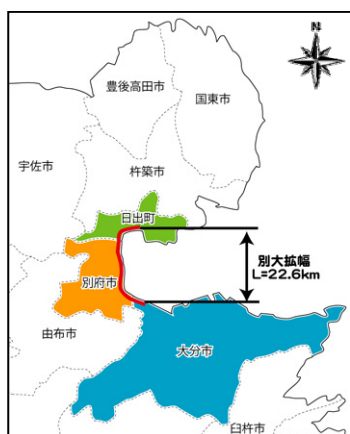
2. 事業の必要性

(1) 事業を巡る社会情勢等の変化

1) 人口の推移

平成22年の大分県の総人口は、約119.6万人で、平成17年と比べると約1.3万人の減少となっている。大分市と日出町の人口は、別大拡幅の部分供用とともに大きく増加しており、前回評価時（H19）以降も増加している。

一方、別府市の人口は、別大拡幅の部分供用とともに昭和55年までは伸びているが、その後減少しており前回評価時（H19）以降も減少している。



※人口伸び率は、昭和45年を1.00として示している。

▲ 人口伸び率の推移

▼ 人口の推移

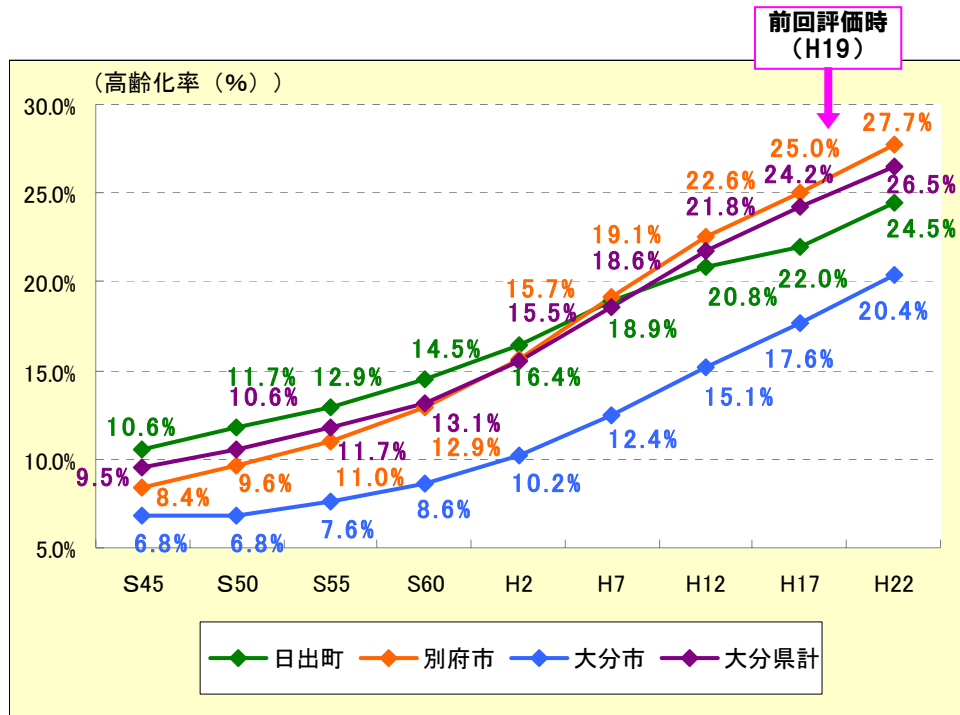
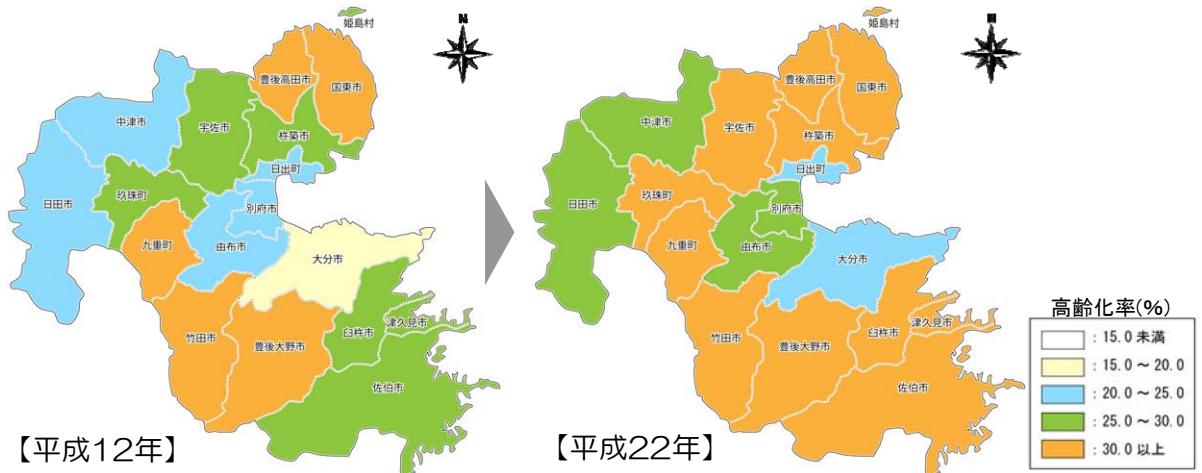
市町村	項目	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
日出町	人口(人)	20,207	20,326	21,464	22,564	23,589	24,433	26,142	27,640	28,217
	人口伸び率	1.00	1.01	1.06	1.12	1.17	1.21	1.29	1.37	1.40
別府市	人口(人)	123,786	133,894	136,485	134,775	130,334	128,255	126,523	126,959	125,407
	人口伸び率	1.00	1.08	1.10	1.09	1.05	1.04	1.02	1.03	1.01
大分市	人口(人)	289,951	347,702	385,635	413,622	429,927	446,581	454,424	462,317	473,955
	人口伸び率	1.00	1.20	1.33	1.43	1.48	1.54	1.57	1.59	1.63
大分県計	人口(人)	1,155,566	1,190,314	1,228,913	1,250,214	1,236,942	1,231,306	1,221,140	1,209,571	1,196,409
	人口伸び率	1.00	1.03	1.06	1.08	1.07	1.07	1.06	1.05	1.04

資料：国勢調査（※H22は速報値）

2) 高齢化率の推移

大分県では、全県的に高齢化が進行している。

事業区間沿線（日出町・別府市・大分市）の高齢化率は、大分県平均と同様に年々上昇しており、前回評価時（H19）以降も上昇している。



▼ 高齢者人口と高齢化率の推移

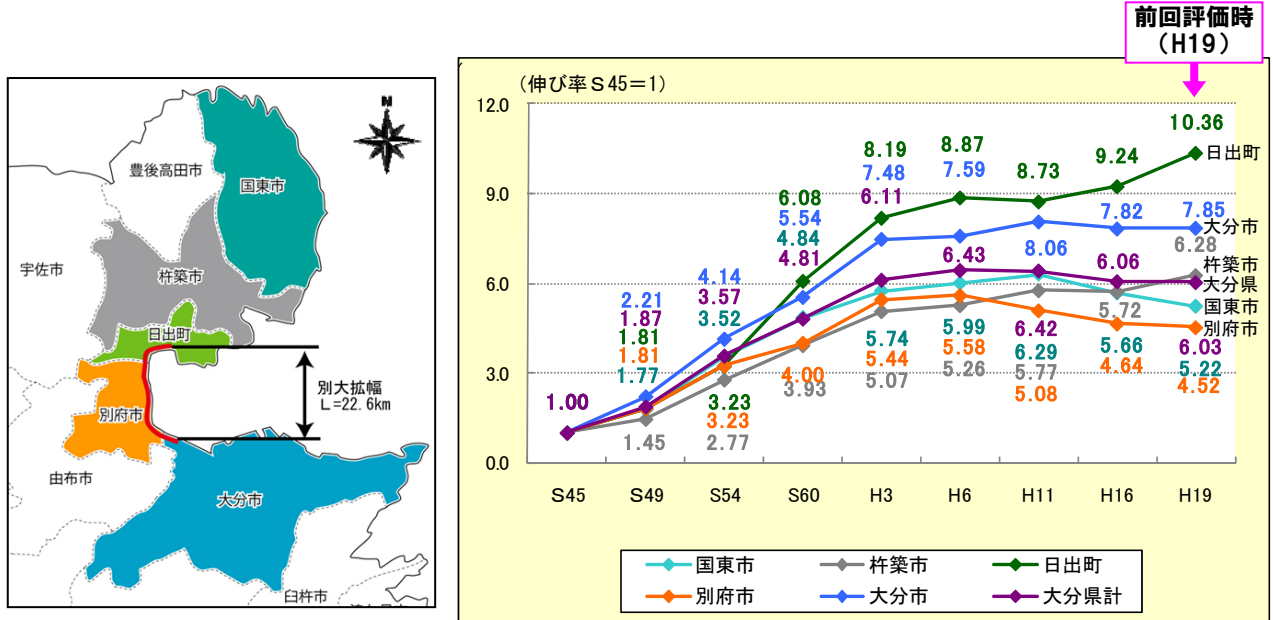
市町村	項目	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
日出町	高齢者(人)	2,475	2,820	2,774	3,272	3,866	4,622	5,442	6,086	6,900
	高齢化率	10.6%	11.7%	12.9%	14.5%	16.4%	18.9%	20.8%	22.0%	24.5%
別府市	高齢者(人)	2,605	3,013	15,030	17,420	20,441	24,547	28,566	31,746	34,759
	高齢化率	8.4%	9.6%	11.0%	12.9%	15.7%	19.1%	22.6%	25.0%	27.7%
大分市	高齢者(人)	419	465	29,353	35,581	43,948	55,551	68,741	81,479	96,684
	高齢化率	6.8%	6.8%	7.6%	8.6%	10.2%	12.4%	15.1%	17.6%	20.4%
大分県計	高齢者(人)	109,912	125,669	144,240	163,746	191,441	229,076	265,901	292,805	317,483
	高齢化率	9.5%	10.6%	11.7%	13.1%	15.5%	18.6%	21.8%	24.2%	26.5%

資料：国勢調査 (S45～H17)
大分県の推計人口 (H22)

◆商業（商品小売販売額の推移）

小売販売額は、事業化当時から右肩上がりで伸びていたが、平成6年頃を境に横ばい・減少に転じている。

しかし、郊外型・ロードサイド型店舗の進展等により、日出町や杵築市は増加傾向にある。



※伸び率は、昭和45年を1.00として示している。

▲ 商品小売販売額伸び率の推移

▼ 商品小売販売額の推移

市町村	項目	S45	S49	S54	S60	H3	H6	H11	H16	H19
日出町	小売販売額(千万円)	213	386	689	1,294	1,744	1,889	1,860	1,968	2,207
	伸び率	1.00	1.81	3.23	6.08	8.19	8.87	8.73	9.24	10.36
別府市	小売販売額(千万円)	2,745	4,975	8,868	10,973	14,944	15,328	13,940	12,727	12,394
	伸び率	1.00	1.81	3.23	4.00	5.44	5.58	5.08	4.64	4.52
大分市	小売販売額(千万円)	6,785	15,023	28,086	37,567	50,723	51,469	54,694	53,086	53,263
	伸び率	1.00	2.21	4.14	5.54	7.48	7.59	8.06	7.82	7.85
杵築市	小売販売額(千万円)	465	676	1,290	1,827	2,356	2,448	2,682	2,661	2,918
	伸び率	1.00	1.45	2.77	3.93	5.07	5.26	5.77	5.72	6.28
国東市	小売販売額(千万円)	404	717	1,424	1,957	2,317	2,420	2,543	2,288	2,109
	伸び率	1.00	1.77	3.52	4.84	5.74	5.99	6.29	5.66	5.22
大分県計	小売販売額(千万円)	2,005,300	3,756,500	7,160,100	9,642,500	12,254,600	12,902,800	12,874,500	12,152,300	12,094,200
	伸び率	1.00	1.87	3.57	4.81	6.11	6.43	6.42	6.06	6.03

資料：大分県商業統計調査

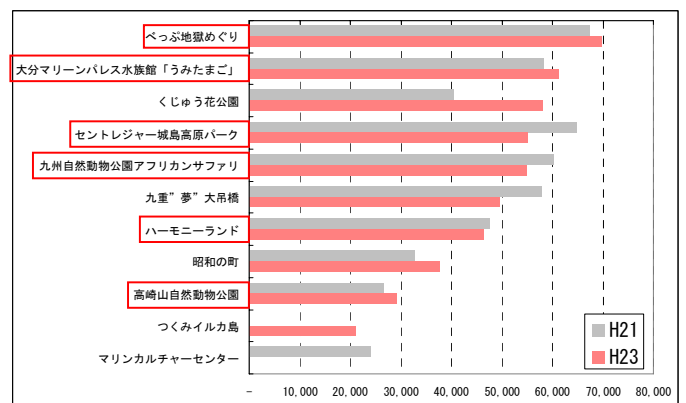
◆観光

当該区間沿線には、別府地獄めぐりをはじめ有数の観光レジャー施設が点在しており、休日や行楽シーズンには多くの観光客が訪れている。



ゴールデンウィーク(4/29～5/8の10日間)期間中、当該区間沿線の観光施設への入場者数は、H21で延べ32.5万人、H23で延べ31.6万人(右表の赤字の6施設の合計)となっており、多くの観光客が訪れている。

▼ GW入場者数上位10施設



資料：大分県ゴールデンウィーク観光動向調査 (H21. 5、H23. 5)

4) 救急医療

◆救急医療体制

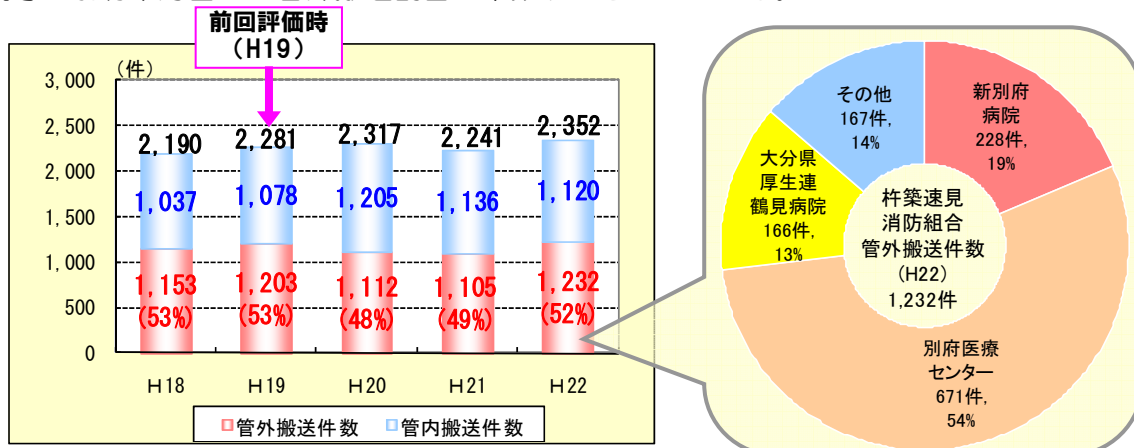
第2次救急医療施設などで対応が困難な場合に搬送される第3次救急医療施設（救命救急センター）は、前回評価時（H19）ではアルメイダ病院のみであったが、現在は新別府病院を含め4施設に拡充され、救急医療体制の充実を図られている。



▲ 別大拡幅周辺の救急体制

◆救急搬送実績

杵築市・日出町での救急搬送件数は、微増傾向にあり、さらに別府医療センターや新別府病院等の別府市方面への管外搬送割合が半数以上を占めている。

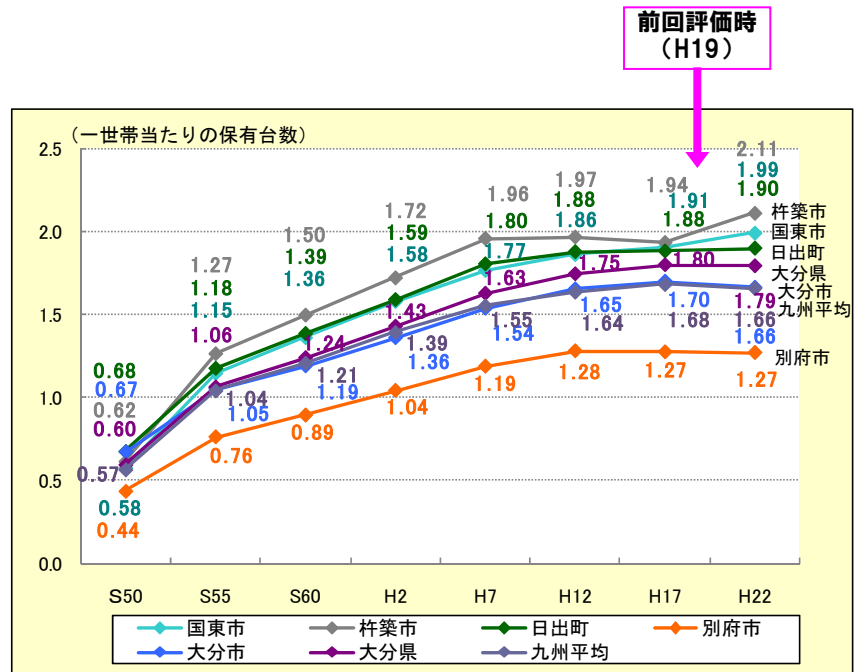
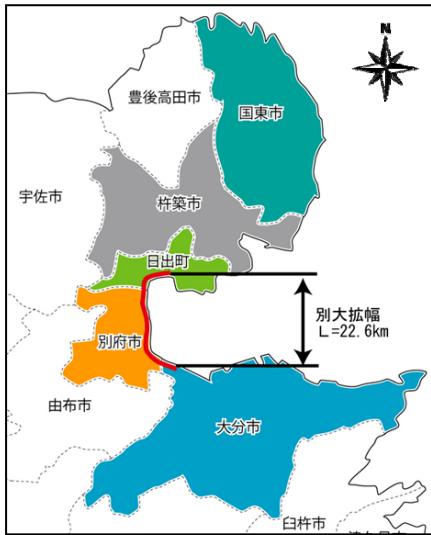


▲ 杵築速見消防組合における救急搬送件数の推移

※杵築速見消防組合の管轄圏域：杵築市（旧山香町を含む）、日出町

5) 自動車保有台数の推移

一世帯当たりの自動車保有台数は、別府市・大分市を除く日出町や事業区間周辺地域（杵築市・国東市）においても年々増加しており、大分県平均の1.79台（H22）を上回っている。前回再評価（H19）以降は、別府市・大分市並びに大分県平均はほぼ横ばいであるが、その他は依然として増加している。



▲ 1世帯あたりの自動車保有台数の推移

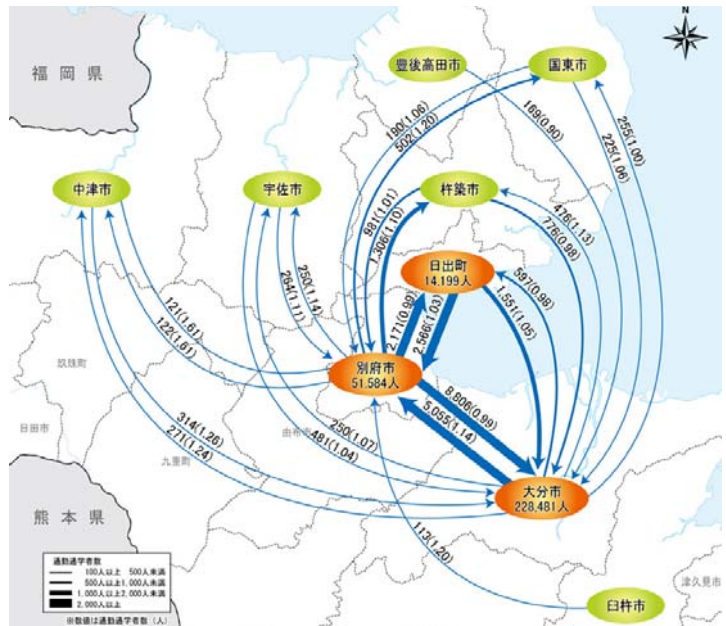
▼ 自動車保有台数・世帯数の推移

市町村	項目	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
日出町	自動車保有台数	3,668	7,041	8,952	11,356	14,295	16,892	19,050	20,068
	世帯数	5,420	5,982	6,458	7,142	7,922	8,996	10,124	10,568
	1世帯当たりの保有台数	0.68	1.18	1.39	1.59	1.80	1.88	1.88	1.90
別府市	自動車保有台数	19,293	37,034	43,639	51,878	61,030	67,603	70,104	71,157
	世帯数	44,171	48,532	48,844	49,814	51,453	52,877	55,108	56,113
	1世帯当たりの保有台数	0.44	0.76	0.89	1.04	1.19	1.28	1.27	1.27
大分市	自動車保有台数	68,247	130,635	161,576	202,090	253,110	288,548	311,839	325,177
	世帯数	101,970	124,209	135,958	148,771	164,797	174,521	183,458	195,556
	1世帯当たりの保有台数	0.67	1.05	1.19	1.36	1.54	1.65	1.70	1.66
杵築市	自動車保有台数	6,111	12,595	15,170	17,692	20,729	23,000	25,147	25,705
	世帯数	9,924	9,950	10,124	10,269	10,575	11,677	12,988	12,172
	1世帯当たりの保有台数	0.62	1.27	1.50	1.72	1.96	1.97	1.94	2.11
国東市	自動車保有台数	6,924	13,780	16,614	19,271	22,266	24,496	25,942	26,186
	世帯数	11,985	12,002	12,188	12,190	12,594	13,147	13,588	13,144
	1世帯当たりの保有台数	0.58	1.15	1.36	1.58	1.77	1.86	1.91	1.99
大分県計	自動車保有台数	205,005	403,567	491,151	588,934	708,390	792,052	844,831	864,446
	世帯数	344,100	379,040	395,855	411,634	435,040	453,814	469,270	481,957
	1世帯当たりの保有台数	0.60	1.06	1.24	1.43	1.63	1.75	1.80	1.79
九州平均	自動車保有台数	291,998	597,183	729,357	883,704	1,053,174	1,169,255	1,241,929	1,262,266
	世帯数	513,815	572,499	603,069	633,887	677,681	713,937	737,717	760,549
	1世帯当たりの保有台数	0.57	1.04	1.21	1.39	1.55	1.64	1.68	1.66

資料：自動車保有車両数、軽自動車車両数、国勢調査
 (※H22世帯数は速報値)

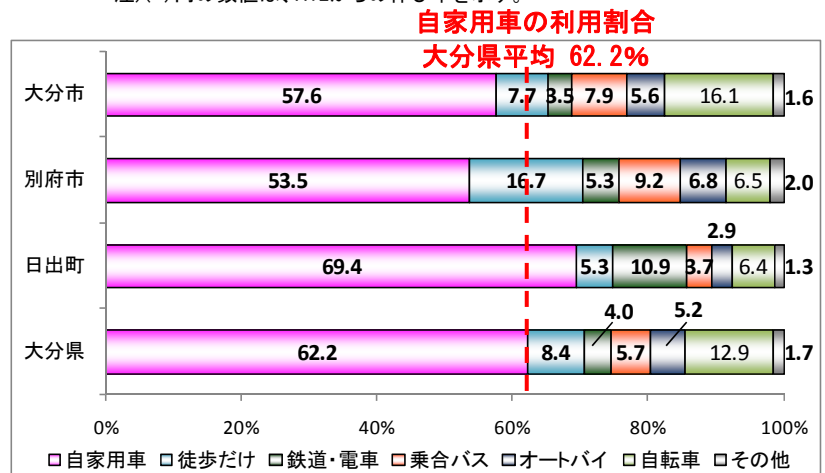
6) 通勤・通学の流動

日出町～別府市～大分市間の通勤・通学流動の動向(H17/H12)は、大分市から別府市へ向かう流動は約1.14倍、別府市から杵築市へ向かう流動は1.10倍、日出町から大分市への流動は1.05倍、日出町から別府市への流動は1.03倍に増加している。



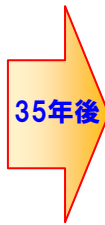
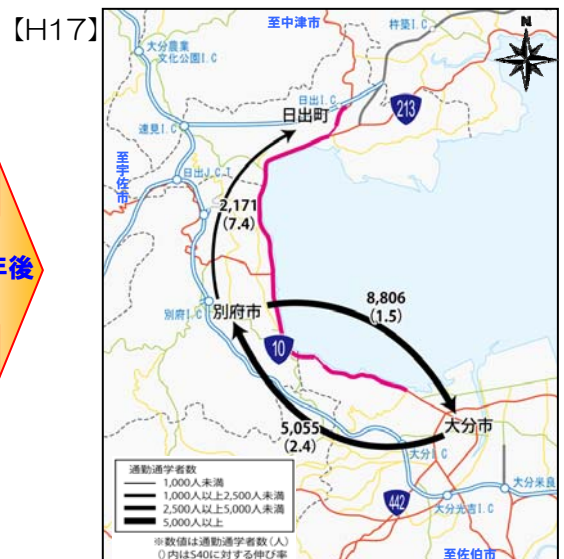
▲ 通勤・通学流動量と伸び 資料：国勢調査(H12, H17)
注) ()内の数値は、H12からの伸び率を示す。

当該区間沿線の日出町の通勤通学時の利用交通手段で最も多いのは自家用車(69.4%)であり、大分県平均(62.2%)を7ポイント上回り、自動車の利用割合が高くなっている。



▲ 当該区間沿線市町村における通勤通学利用交通手段 資料：国勢調査(H12)

日出町～別府市～大分市間の通勤・通学人口は、事業化当時(昭和45年)から平成17年で約1.5～7.4倍に増加している。



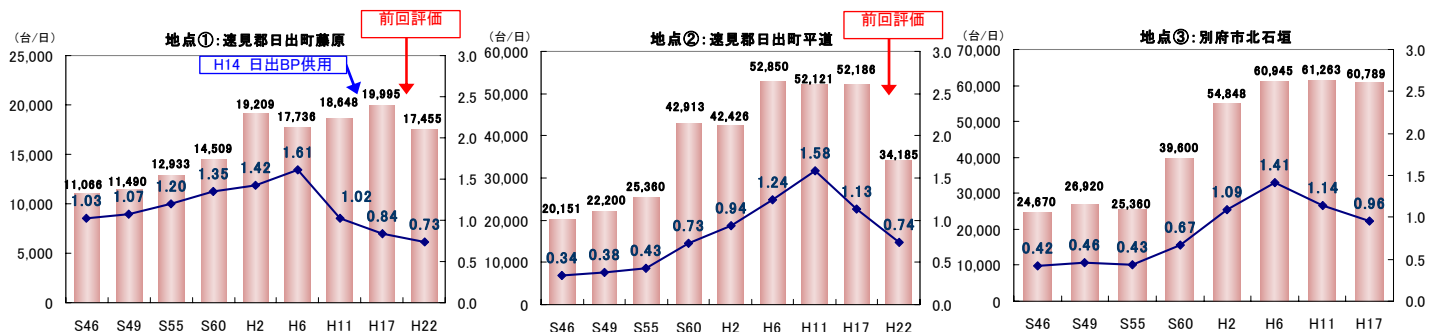
▲ 当該区間沿線市町間の主な通勤通学流動の変化

資料：国勢調査

※通勤通学時の利用交通手段は10年毎の調査であるため、H17年のデータはない。また、H22国勢調査の利用交通手段はH24.6月公表予定のため、H12国勢調査で整理した。

7) 交通量等の推移

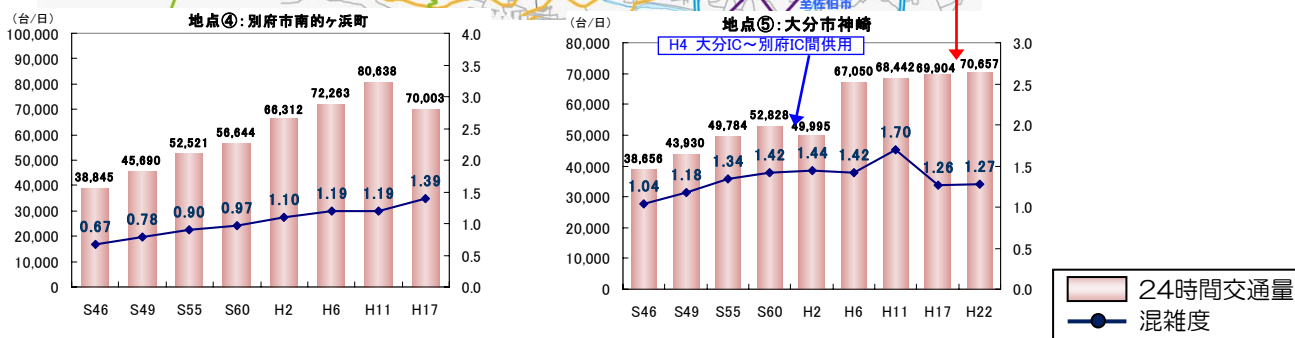
- ・当該路線の交通量は、事業化当初より段階的な整備に伴い増加してきたが、ここ数年は横ばい傾向にある。



▲ 事業区間(藤原地区)の混雑状況【写真1】

▲ 事業区間(高崎山地区)の混雑状況【写真2】

※図中の数値は、H17道路交通センサスに基づく。



▲ 交通量及び混雑度の変化

※グラフ中のS46～S55の混雑度はS60の交通容量を用い、H22の混雑度はH17の交通容量を用いて算出している。

資料：道路交通センサス

(2) 事業の効果・必要性

効果－1：交通混雑の緩和（既に発現した効果）

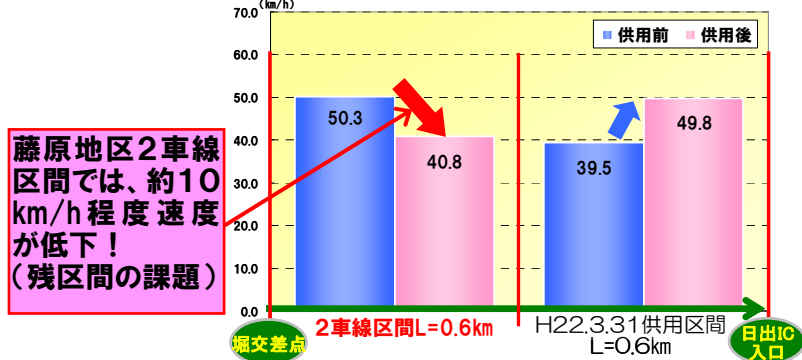
◎容量拡大に伴う旅行速度の向上

藤原地区では、H22.3.31に日出IC付近(L=0.6km)の4車線化が完了し、IC入口交差点付近で走行速度が約10km/h(39.5km/h⇒49.8km/h)上昇している。一方、残事業区間(堀交差点側L=0.6km)では、速度が約10km/h(50.3km/h⇒40.8km/h)低下している。

別大地区では、H20.2に東別府地区(L=0.7km)、うみたまご地区(L=0.3km)の6車線化が完了し、うみたまご地区より東側の区間では、走行速度が約12～32km/hと上昇している。残事業区間(4車線区間)では、他の別大区間に比べ速度低下が著しい。



日出IC付近の供用により、容量が拡大され走行速度が約10km/h(39.5km/h⇒49.8km/h)上昇！



藤原地区2車線区間では、約10km/h程度速度が低下！（残区間の課題）

資料：【供用前】H22.3.16(火)上り方向,18時台調査結果
【供用後】H22.5.26(水)上り方向,18時台調査結果

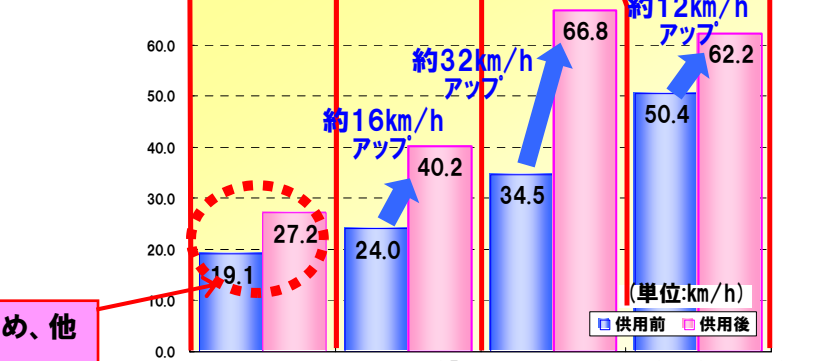
▲ 別大拡幅(藤原地区日出IC付近)供用前後の旅行速度変化

▲ 藤原地区(日出IC側L=0.6km)供用前後の状況



▲ 別大地区(東別府地区L=0.7km)供用前後の状況

6車線化により、うみたまごより東側(大分市側)の区間で走行速度が約12～32km/hと大幅に上昇！



4車線区間(高崎山地区)が残るため、他の区間と比べ、著しく速度が低い（残区間の課題）

資料：【供用前】H19.11.21(水)上り方向,8時台調査結果
【供用後】H20. 3. 4(火)上り方向,8時台調査結果

効果-1：交通混雑の緩和（今後期待される効果）

◎車線増加に伴う走行空間の確保と走行性の向上

藤原地区の2車線区間では、大型車交通が近年3,000台/日弱で推移している。藤原地区の2車線区間では、上り坂に起因する大型車両の低速走行により、自動車の数珠繋ぎが頻繁に発生している。

また、国道10号農協先交差点～国道213号産業通り交差点間(L＝約130m)で、滞留長が区間長を超過し、国道10号の下り直進交通の障害による交通混雑が頻繁に発生している。

よって、藤原地区の4車線化により交通混雑は解消され、走行性の向上による交通の円滑化が期待される。

▼上り坂に起因する大型車の低速走行



上り勾配により大型車が速度低下を起こし、低速走行車列が発生！



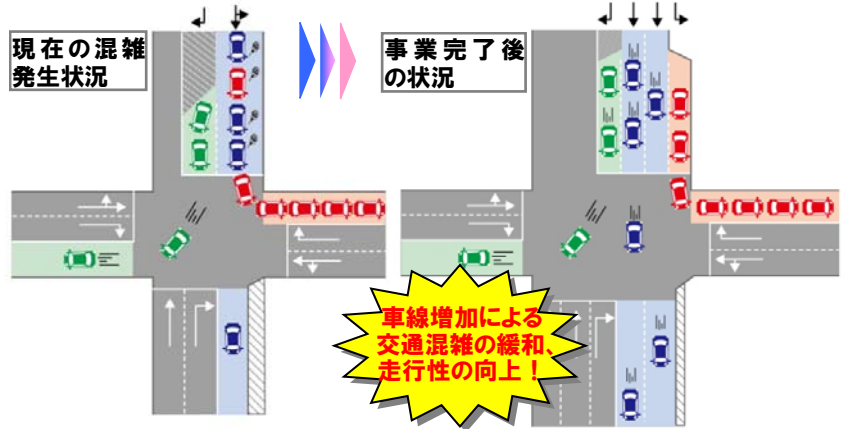
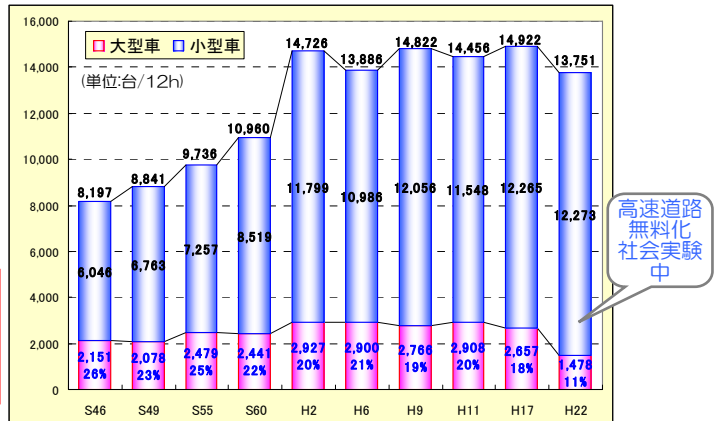
▼左折車両の滞留状況



左折車の滞留により、直進車の通行障害が発生！



▼大型車交通量の推移(別大拡幅藤原地区)



▲別大地区(東別府地区)供用前後の状況



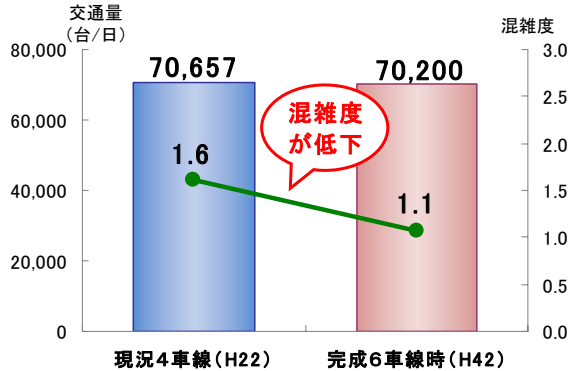
▲国道10号藤原地区(農協先交差点)における交通状況

藤原地区2車線区間及び別大地区4車線区間では、朝夕のラッシュ時に混雑状況にあり、円滑な交通が阻害されている。

別大拡幅が全線整備されることで、交通混雑の緩和が期待される。

別大地区での混雑度が大幅に改善！

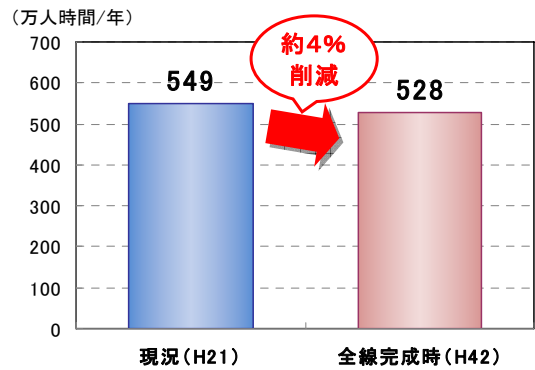
①別大地区の交通量と混雑度



▲ 交通量と混雑度の変化

全線整備により損失時間が約4%削減！

②別大拡幅全線L=22.6km

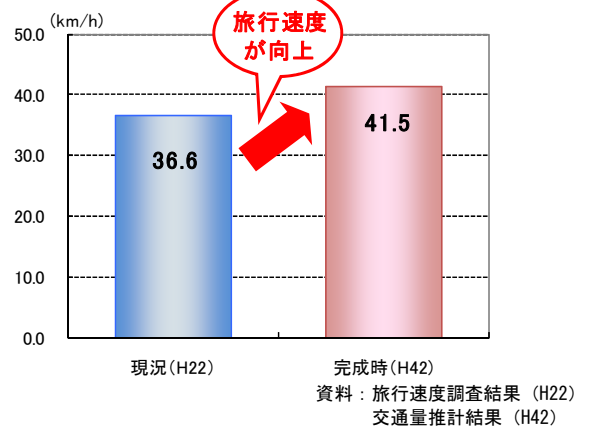


▲ 損失時間の変化



旅行速度が約5km/h (13%)アップ！

③日出IC入口～うみたまご間 (約18km) の上り下り平均旅行速度



▲ 旅行速度の変化

2004年の「うみたまご」オープン時の休日では、大分方面は白木地区まで、別府方面は亀川地区まで渋滞していたが、別大地区の6車線化が進んだことで、現在ではほとんど渋滞することは無くなった。
(大分マリーンパレス株)



▲ 別大地区 (高崎山地区) における渋滞状況 (朝7~9時)

効果－２：交通安全性の向上（既に発現した効果）

◎自転車歩行者道の設置による安全性の向上

◎地域における交流の場としての機能確保

藤原地区(日出 I C 付近 L=600m)では、3.0mの自歩道が整備され、安全な通行環境が確保されたところであり、残事業区間においては、有効幅員が1.0m程度の区間もあり、延伸が期待される。また、別大地区でも、拡幅事業に合わせて幅員4.0mの自歩道整備が進んでおり、自歩道の延伸が期待される。

また、別大地区では、自転車道・歩道の整備に合わせて、別大ウォークや別大マラソンに合わせたボランティアサポートプログラムによる恒例行事が定着しており、地域における交流や様々な活動の場として機能している。

【藤原地区供用区間(日出 I C 付近)】



【別大地区供用区間(東別府地区)】



【藤原地区残事業区間】



【べつだいウォーク2005(マリンパレス地区)】



【第60回別大マラソン翌日の清掃活動(マリンパレス地区：H23. 2. 7(月))】



※ボランティアサポートプログラム協定に基づく恒例行事として定着している。

効果－２：交通安全性の向上（今後期待される効果）

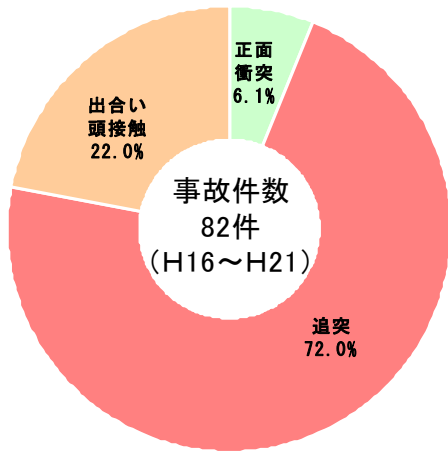
◎自転車歩行者道の設置による安全性の向上

◎幅員増に伴う見通しの改善による死傷事故率の低下

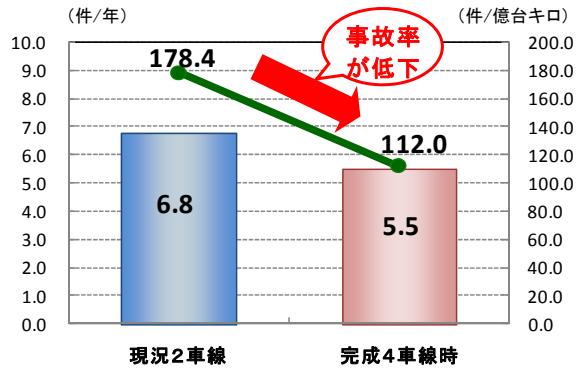
藤原地区の2車線区間では、特に、下り方向に縦断勾配5%で右カーブとなっている区間で、見通しが悪く下り方向（別府市方面向き）は速度も高いことと、沿道住宅地からの出入り交通も多いことから、比較的事故発生件数が多く（下図参照）、主な事故類型は「車両相互の追突事故」で、59件/6年間（約72%）と多くなっている。

また、同区間の歩道幅員は約1.8mで、歩行空間として十分ではない。

残事業区間の整備により、見通しの改善と歩行者・自転車の安全性向上が期待される。



資料：事故統合データベース（H16～H21）



※整備後の事故率：大分県における「2車線・中央帯なし・混雑度1.5～1.75(101.1)」と「4車線・中央帯あり・混雑度1.0未満(63.8)」の事故率の比率により推計

資料：事故統合データベース（H16～H21）

▲ 残事業区間における事故類型別の事故件数

▲ 事業区間の事故率・事故件数の変化



▲ 残事業区間における事故発生状況 道路-3-17

資料：事故統合データベース（H16～H21）

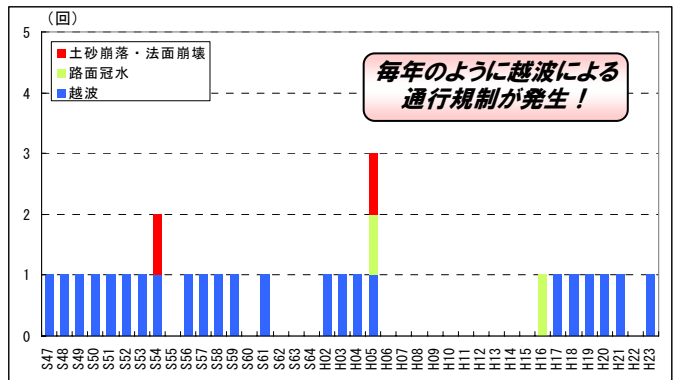
効果-3：災害に強い道路ネットワークの構築（既に発現した効果）

◎防災機能の強化による信頼性の向上

別大拡幅区間のうち、特に別大地区では、別府湾に面して越波による道路の通行阻害が生じる区間であることから、特殊通行規制区間に指定されている。また、台風や集中豪雨等による災害に伴う通行止めもあり、別大拡幅事業が始まった時期以降、年に1～3回程度の通行規制が発生している。

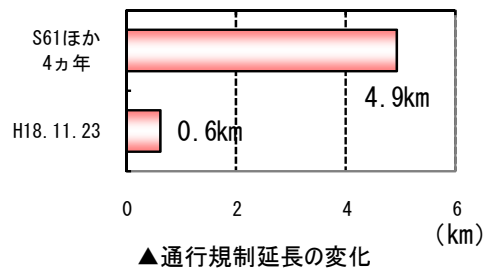
別大区間(東別府地区～高崎山地区)の供用は、交通容量の拡大と合わせ、急傾斜地での施工性の高いフレア護岸の採用により、6車線化の整備が進むにつれて越波による通行規制延長の短縮が図られている。

残事業区間の供用は、高速道路通行止め時における信頼性の高い代替路線の確保が期待される。



▲ 別大地区における通行規制履歴

6車線化が進むにつれて、越波による通行規制延長が短縮！



▲ 通行規制延長の変化



▲ 道路整備状況に伴う通行規制延長の変化



▲ 越波による上下線通行止め時の状況



▲ 路面冠水による通行規制時の状況 (H5.9、大分マリンパレス前)



▲ 法面崩壊による通行規制時の状況 (H5.9、白木地区)



▲ 急傾斜地での施工性の高い構造→フレア護岸

効果－3：災害に強い道路ネットワークの構築（今後期待される効果）

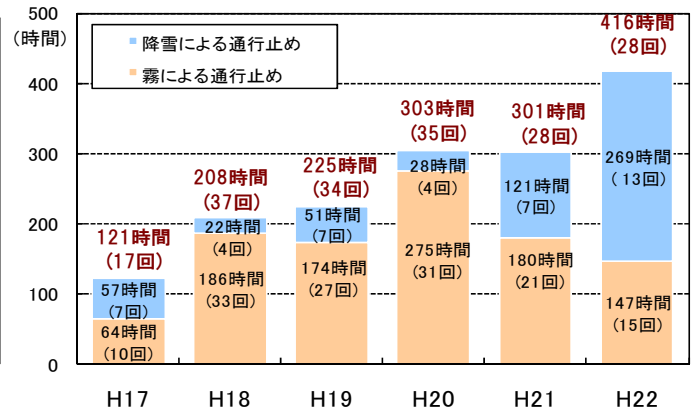
◎濃霧発生・積雪時における代替路線の確保・機能強化

国道10号と平行する大分自動車道・宇佐別府道路は、積雪や濃霧による通行止めが頻繁に発生しており、国道10号は代替路線として機能している。高速道路通行止め時には、2車線区間である藤原地区は、交通が集中し交通混雑が発生している。

4車線化により、高速道路通行止めによる国道10号の交通渋滞の緩和や速度低下の改善が期待される。



▲ 大分自動車道(日出JCT付近)の濃霧時



資料：Nexco西日本調べ

▲ 大分自動車道等の通行止め実績



※大分道通行止時の国道10号の渋滞区間は、タクシー乗務員ヒアリングに基づく

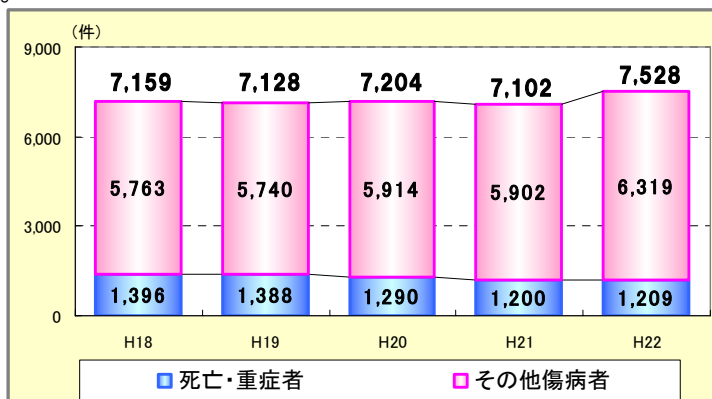
霧により大分道が通行止めとなった場合は、国道10号は日出町～亀川地区公設市場前交差点付近まで渋滞し、日出町の中心部から別府駅前まで約40分程度（通常時では25分程度）かかっている。
（日出町タクシー乗務員）

効果－4：救急医療活動の支援（今後期待される効果）

- ◎高度医療施設への早急な搬送が期待でき、救命率の向上など住民の安心・安全を確保
- ◎走行性の向上により、揺れや振動も抑えられ、患者の安静な搬送が可能

事業区間沿線での救急出動件数は、約7千件程度で推移しているが、そのうち約20%弱は、死亡・重症者の搬送である。

藤原地区の4車線化により、日出消防署から現場への到着時間や現場から搬送先病院までの所要時間が短縮するとともに、患者の安静搬送にもつながり、救命率の向上や搬送患者の負担軽減が期待できる。



▲ 別府消防本部・杵築速見消防組合の傷病程度別救急出動件数の推移
資料：別府市消防本部・杵築速見消防組合提供資料



▲ 対向車が見えない残事業区間のカーブ区間

日出消防署から緊急車両(救急車・消防車)の大半が、残事業区間を通行するため、搬送には十分な注意を払って走行している。

特に2車線区間に車両が滞留している時は、センターラインを跨いで通行しているが、別府方面へ向かう際カーブで見通しが利かないため、対面交通に十分注意を図りながら運転しているが、とても危険である。

4車線が整備されることで、安心して搬送ができるようになり、救命活動を迅速に行うことが可能となり、助かる命が増えることが期待できる。

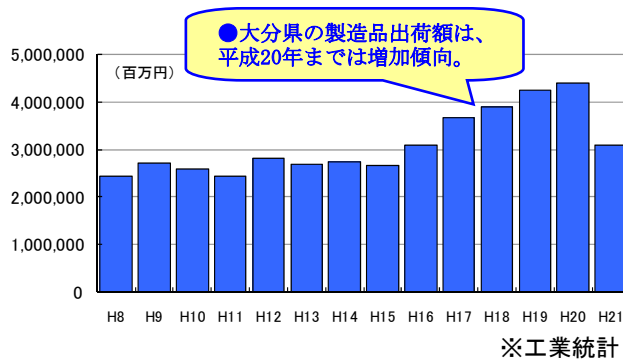
(杵築速見消防組合)

効果－5：産業・観光活動の支援（今後期待される効果）

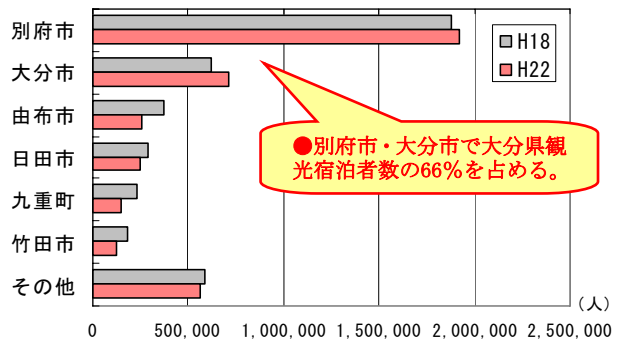
◎地域の経済活動を支える基幹路線としての機能の強化

◎広域観光拠点の連絡を強化し、地域産業の活性化を支援

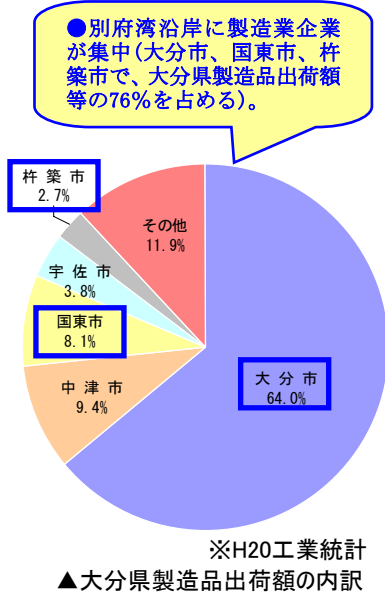
大分県では、別府湾沿岸に製造業企業が多く集積しており、大分市、国東市、杵築市で大分県製造品出荷額の約76%を占めている。また、大分県の平成22年の宿泊者数は約400万人で、うち別府市の宿泊者数が48%、大分市を含めると66%である。別大拡幅事業は、沿線に立地する工場や企業の経済活動を支援するとともに、多くの観光客が訪れる観光施設相互の円滑な移動を支えるために、重要な役割を担っている。



▲大分県製造品出荷額



▲市町村別観光宿泊客数



▲大分県製造品出荷額の内訳



▲事業区間周辺地域における主な企業立地と観光施設の分布

(3) 事業の投資効果

1) 事業の目的

国際観光都市である別府市と東九州の中心都市で県都である大分市を連絡し、朝夕のピーク時をはじめ交通混雑が慢性化しており、交通混雑の緩和と交通安全の確保を目的とした現道拡幅事業である。

2) 費用便益分析結果【残事業】

①便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成23年度			
供用年	平成26年度			
初年便益	0.37億円	0.02億円	0.07億円	0.45億円
基準年における現在価値(B)	16億円	0.97億円	1.7億円	19億円

②費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成23年度		
単純合計	8.5億円	6.0億円	14億円
基準年における現在価値(C)	8.0億円	2.4億円	10億円

③評価指標の算定結果

費用便益比(CBR)	B/C = 1.8
------------	-----------

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

3) 費用便益分析結果【全事業】

①便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成23年度			
供用年	昭和49年度			
初年便益	25億円	2.8億円	0.26億円	28億円
基準年における現在価値(B)	12,434億円	934億円	48億円	13,416億円

②費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成23年度		
単純合計	813億円	208億円	1,021億円
基準年における現在価値(C)	2,432億円	334億円	2,767億円

③評価指標の算定結果

費用便益比(CBR)	B/C = 4.8
------------	-----------

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

2) 事業費の進捗状況

(単位：億円)

	全体事業費	H22年度末進捗	進捗率
事業費	約833億円	約817億円	98%
うち用地補償費	約208億円	約206億円	99%

※進捗率は事業費ベース

3) 前回の評価時との比較

項目		前回評価時 (H19年度)	今回評価時 (H23年度)
延長		22.6 km	22.6 km
計画交通量 (H42)		①26,900 台/日 ②69,500 台/日 ③62,000 台/日	①22,600 台/日 ②86,100 台/日 ③70,200 台/日
事業費 (現在価値化後)		約833億円 (約1,452億円)	約833億円 (約2,432億円)
B/C	残事業	1.5 = $\frac{115\text{億円}}{79\text{億円}}$	1.8 = $\frac{19\text{億円}}{10\text{億円}}$
	全事業	6.4 = $\frac{11,319\text{億円}}{1,771\text{億円}}$	4.8 = $\frac{13,416\text{億円}}{2,767\text{億円}}$

※[]書き上段：現在価値化後の便益、下段：現在価値化後のコスト

3. 事業の進捗の見込み

(1) 今後の事業の見通し

国道10号別大拡幅の平成22年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約98%であり、用地進捗率は99%に達している。

現在、別大地区については平成23年度、藤原地区については平成25年度の供用を目指し整備を進めている。

事業推進にあたっては、地元や関係機関との協力体制も確立しており、円滑な事業執行が可能である。

(2) 地域の協力体制

年月	要望者	要望内容	要望先
平成14年7月16日	日出町長、日出町議会	国道10号(日出堀交差点～赤松区間)の事業中区間の早期完成について	国土交通本省
平成14年8月19日	大分市長	国道10号別府・大分間道路整備の促進、予算確保について	国土交通本省
平成16年5月7日 平成16年5月10日	日出町長 "	国道10号(堀～赤松間)の早期整備について	大分河川国道事務所 国土交通本省
平成17年5月26日	大分市長	国道10号(別大国道)拡幅改良工事の促進について	大分河川国道事務所
平成17年8月10日	別府市長	国道10号東別府～高崎山間全線6車線化早期完成について	九州地方整備局 大分河川国道事務所
平成18年1月27日	別府・大分間国道改修建設期成同盟会	別大拡幅工事促進	九州地方整備局
平成18年7月13日 平成18年7月15日	別府商工会議所会頭 "	国道10号両郡橋～高崎山間全線の6車線化早期完成について	大分河川国道事務所 九州地方整備局
平成19年1月24日	別府・大分間国道改修建設期成同盟会	別大拡幅工事促進	九州地方整備局
平成20年1月23日	別府・大分間国道改修建設期成同盟会	道路整備予算の確保、別大国道の全線6車線化の早期完成について	九州地方整備局
平成21年1月22日	別府・大分間国道改修建設期成同盟会	道路整備予算の確保、別大国道の全線6車線化の早期完成について	九州地方整備局
平成22年1月20日	別府・大分間国道改修建設期成同盟会	道路整備予算の確保、別大国道の全線6車線化の早期完成について	九州地方整備局
平成23年1月20日	別府・大分間国道改修建設期成同盟会	道路整備予算の確保、別大国道の全線6車線化の早期完成について	九州地方整備局

◆協力体制

組織名	業務内容
日出町建設課	地元対応及び地域情報窓口
別府市建設部都市政策課	地元対応及び地域情報窓口
大分市都市計画部都市交通対策課	地元対応及び地域情報窓口

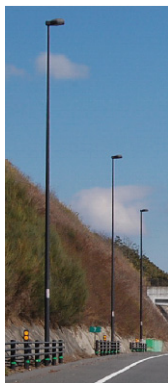
(3) 環境・景観への取り組み状況

◆環境への配慮

- ・ 沿道騒音の軽減及び雨天時の走行性向上を図るため、車道部においては排水性舗装を適用する。

◆景観への配慮（目立たない道路付属物）

- ・ 周辺の景観資源の眺望を阻害しないように、シンプルな形状の道路付属物とする。
- ・ 周辺環境への融和を考慮し、目立たないダークブラウンを採用。
- ・ 採用する色彩は、照明柱、標識柱等の支柱や板裏面についても、防護柵と同様の色彩を用い、トータルカラーコーディネートする。



▲ 道路付属物整備のイメージ

○景観への取り組み状況



▲ 整備前の国道10号の状況



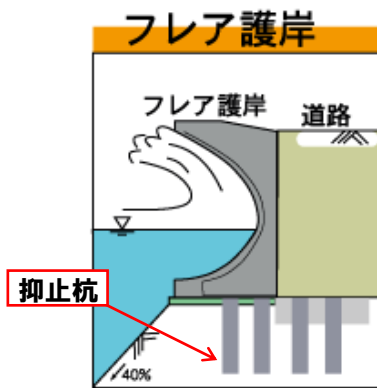
周辺景観に配慮した色彩
(ダークブラウン)を採用

▲ 完成イメージ

4. コスト縮減や代替案立案等

◆コスト縮減

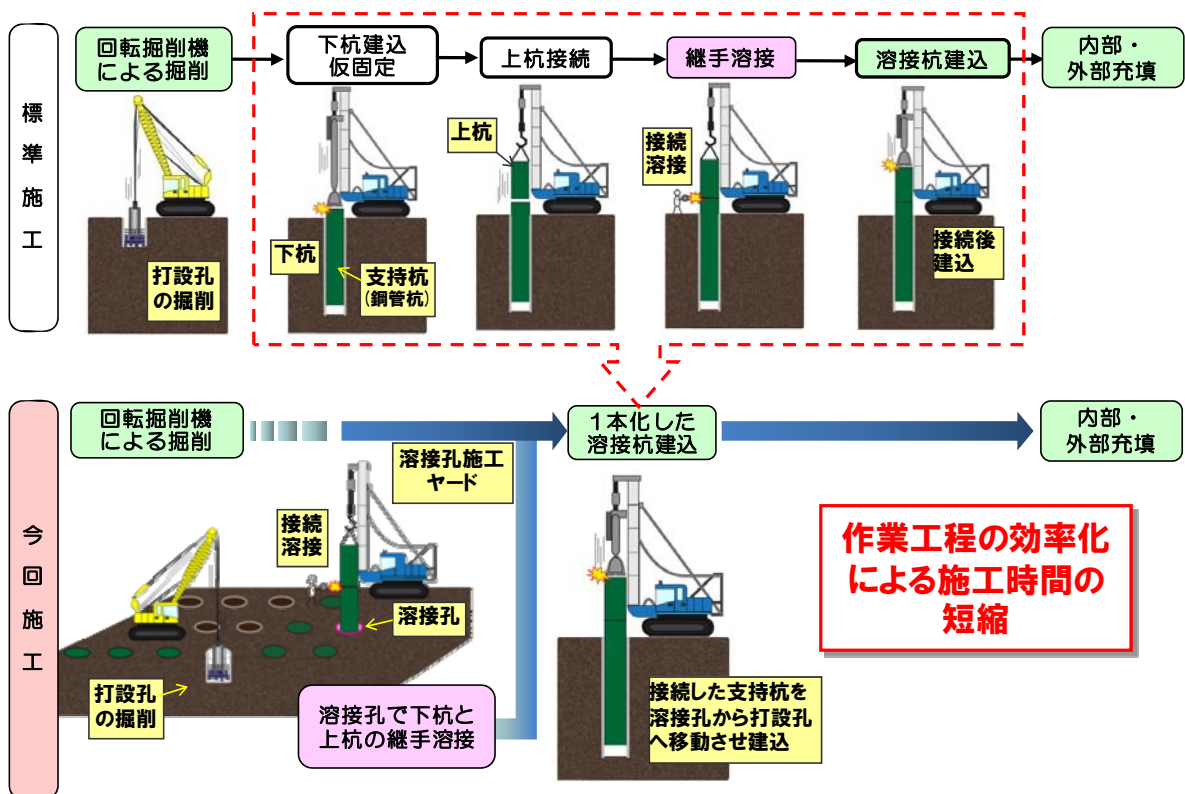
- 事業実施に当たっては、新技術・新工法の積極的活用等により着実なコスト縮減を図る。
- フレア護岸の支持杭の施工において、事前に掘削した溶接孔で下杭と上杭を溶接し、1本化した支持杭を打設することで、作業の効率化を図り施工時間を短縮させ、打設費用の約5百万円をコスト縮減。



▲フレア護岸



▲フレア護岸施工後の状況



▲ 支持杭の施工フロー

◆代替案立案

- 当該事業は、現在までに22.6km区間のうち21.5km区間が供用している。
- 当該事業箇所の国道10号は、比較的線形がよく、沿道には大型店舗等もないことから、部分供用により早期効果を発現できる現道拡幅事業が適当である。

5. 対応方針（原案）

別大拡幅の区間では、朝夕のラッシュ時に著しい交通混雑が発生しており、4～6車線化による交通混雑の緩和・交通安全の確保が図られる。

費用対効果も、十分高い事業である。

事業進捗率は、事業費ベースで約98%【約817億円/約833億円】（平成22年度末）、そのうち用地進捗率は約99%【206億円/208億円】となっており、平成23年度には、別大地区の完成6車線供用、平成25年度には、藤原地区の完成4車線供用を予定している。

よって、当該事業の完成供用に向けて事業を継続することとしたい。

卷末資料

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	国道10号 別大拡幅
事業主体	九州地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

	指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性 ■ 便益が費用を上回っている	全事業：費用便益比 (B/C) = 4.8 (経済的価値現在価値(B-C) = 10.640億円、経済的価値現在価値(EIRR) = 15%) 採事業：費用便益比 (B/C) = 1.8 (経済的価値現在価値(B-C) = 8.5億円、経済的価値現在価値(EIRR) = 8.7%)

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは口を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力 円滑なモビリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率 <input type="checkbox"/> 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される <input type="checkbox"/> 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上以上の踏切道の撤却もしくは交通改善が期待される <input type="checkbox"/> 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する <input type="checkbox"/> 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる 	<p>区間b (当該区間/並行区間) について： 国道10号 (速見郡日出町大字藤原) 並行区間等の損失時間：3.1万人・時間/年 並行区間等の損失削減率：約10割削減</p>
物流効率化の支援	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上 <input type="checkbox"/> 現道等における、総重量25tの車両もしくは150指特普高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する 	

1. 活力	都市の再生	<p><input type="checkbox"/> 都市再生プロジェクトを支援する事業である</p> <p><input type="checkbox"/> 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する</p> <p><input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の治道まちづくりとの連携あり</p> <p><input type="checkbox"/> 中心市街地内で行う事業である</p> <p><input type="checkbox"/> 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である</p> <p><input type="checkbox"/> D10区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する</p> <p><input type="checkbox"/> 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる</p> <p><input type="checkbox"/> 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)としての位置づけ有り</p> <p><input type="checkbox"/> 地域高規格道路の位置づけあり</p> <p><input type="checkbox"/> 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する(A'路線としての位置づけがある場合)</p> <p><input type="checkbox"/> 当該路線が隣接した日常生活圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する</p> <p><input type="checkbox"/> 現運筆における交通不能区間を解消する</p> <p><input type="checkbox"/> 現運筆における大型車のすれ違い困難区間を解消する</p> <p><input type="checkbox"/> 日常生活圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる</p> <p><input type="checkbox"/> 鉄道や河川等により一体的發展が阻害されている地区を解消する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 主要な観光地へのアクセス向上が期待される</p> <p><input type="checkbox"/> 特別立法に基づく事業である</p> <p><input type="checkbox"/> 新線整備の公共施設へ直結する道路である</p> <p><input type="checkbox"/> 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリック的な道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である</p> <p><input type="checkbox"/> 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上の全てに該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる</p> <p><input type="checkbox"/> ハリアフリー新法に基づく特定道路が新たにハリアフリー化される</p> <p><input type="checkbox"/> 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り</p> <p><input type="checkbox"/> 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区画及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する</p> <p><input type="checkbox"/> 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる</p>
2. 暮らし	<p>都市の再生</p> <p>個性ある地域の形成</p> <p>歩行者・自転車のための生活空間の形成</p> <p>無電柱化による美しい町並みの形成</p> <p>安全で安心して暮らすための確保</p>	

「大分県LS1クラスタ形成推進会議」、その他「別大マラソン」
大分マリーナハレス水族館「うみたまご」、年間動員客数76万人(1022年度実績：うみたまご提供資料)

3. 安全	<p>安全な生活環境の確保</p> <p>災害への備え</p>	<p>現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる</p> <p>当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される</p> <p>近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する</p> <p>別荘区間が、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり</p> <p>緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する</p> <p>並行する高速ネットワークの代替路線として機能する（A'路線としての位置づけがある場合）</p> <p>現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架設の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される</p> <p>現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する</p> <p>避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する</p> <p>幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する</p> <p>密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす</p> <p>対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量</p> <p>現道等における自動車からのNO2排出削減率</p> <p>現道等における自動車からのSPM排出削減率</p> <p>現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある</p> <p>その他、環球や景観上の効果が期待される</p> <p>道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている</p> <p>関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり</p> <p>他機関との連携プログラムに位置づけられている</p> <p>その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる</p>
4. 環境	<p>地球環境の保全</p> <p>生活環境の改善・保全</p>	<p>CO2排出削減量：193t-CO2/年（未整備：1,582t-CO2/年 ⇒ 整備：1,389t-CO2/年） 国道10号（遠見郡日出町大字藤原）</p> <p>評価対象区間（現道／並行区間等）：国道10号（遠見郡日出町大字藤原） 排出削減量：1.2t/年、排出削減率：約2割削減</p> <p>評価対象区間（現道／並行区間等）：国道10号（遠見郡日出町大字藤原） 排出削減量：0.1t/年、排出削減率：約2割削減</p>
5. その他	<p>他のプロジェクトとの関係</p>	<p>自動車交通量14,922台/12h、自転車・歩行者交通量94台/12h（H17道路交通センサ区間番号1008）</p>

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
国道10号	別大拡幅	22.6km	二次改築	現拡

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
22,600~86,100	4.6	九州地方整備局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成23年度		
単純合計	813億円	208億円	1,021億円
うち残事業分	8.5億円	6.0億円	14億円
基準年における 現在価値 (C)	2,432億円	334億円	2,767億円
うち残事業分	8.0億円	2.4億円	10億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成23年度			
供用年	昭和49年度			
単年便益 (初年便益)	25億円	2.8億円	0.26億円	28億円
基準年における 現在価値 (B)	12,434億円	934億円	48億円	13,416億円
うち残事業分	16億円	0.97億円	1.7億円	19億円

③ 結 果

費用便益比（事業全体）	4.8
経済的純現在価値（事業全体）	10,649億円
経済的内部収益率（事業全体）	15%
費用便益比（残事業）	1.8
経済的純現在価値（残事業）	8.5億円
経済的内部収益率（残事業）	8.7%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析 （残事業を対象）

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B/C）
交通量	22,600	±10%	1.3 ~ 2.3
事業費	8.5億円	±10%	1.7 ~ 2.0
事業期間	2年	±20%	1.8 ~ 1.8

交通状況の変化

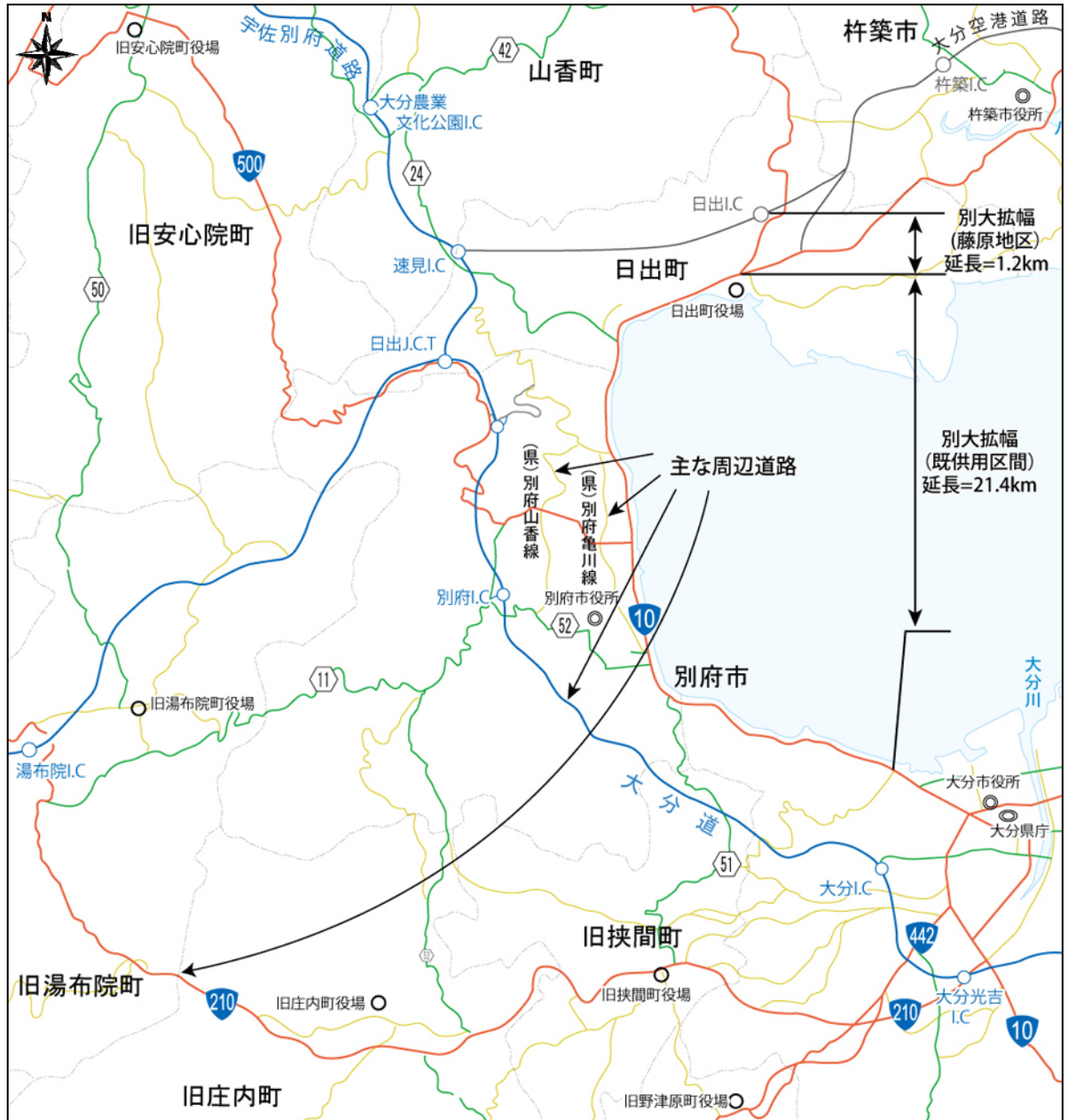
様式-3①

事業名：国道10号 別大拡幅

(推計時点 H17年)

(事業全体)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 別大拡幅[藤原地区] (未供用区間)： 1.2km	交通量	[台/日]	18,200	24,600	
	走行時間	[分]	1.4	1.5	
	走行時間費用	[億円/年]	4.7	6.7	
①新設・改築道路 別大拡幅[既供用区 間]：21.4km	交通量	[台/日]	39,700	66,100	
	走行時間	[分]	51	32	
	走行時間費用	[億円/年]	349	378	
②主な周 辺道路	県_別府 亀川線： 8.5km	交通量	[台/日]	16,300	7,000
		走行時間	[分]	37	25
		走行時間費用	[億円/年]	119	31
	大分道： 119.5km	交通量	[台/日]	15,000	10,000
		走行時間	[分]	89	89
		走行時間費用	[億円/年]	237	160
	県_別府 山香線： 16.0km	交通量	[台/日]	8,600	4,300
		走行時間	[分]	33	32
		走行時間費用	[億円/年]	52	26
	国道210 号： 32.0km	交通量	[台/日]	16,800	14,900
		走行時間	[分]	50	49
		走行時間費用	[億円/年]	153	135
③その他道路合計 3,453.3km	走行時間費用	[億円/年]	5,326	5,274	
			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：3,651.9km	走行時間短縮便益	[億円/年]	6,241	6,011	230



交通状況の変化

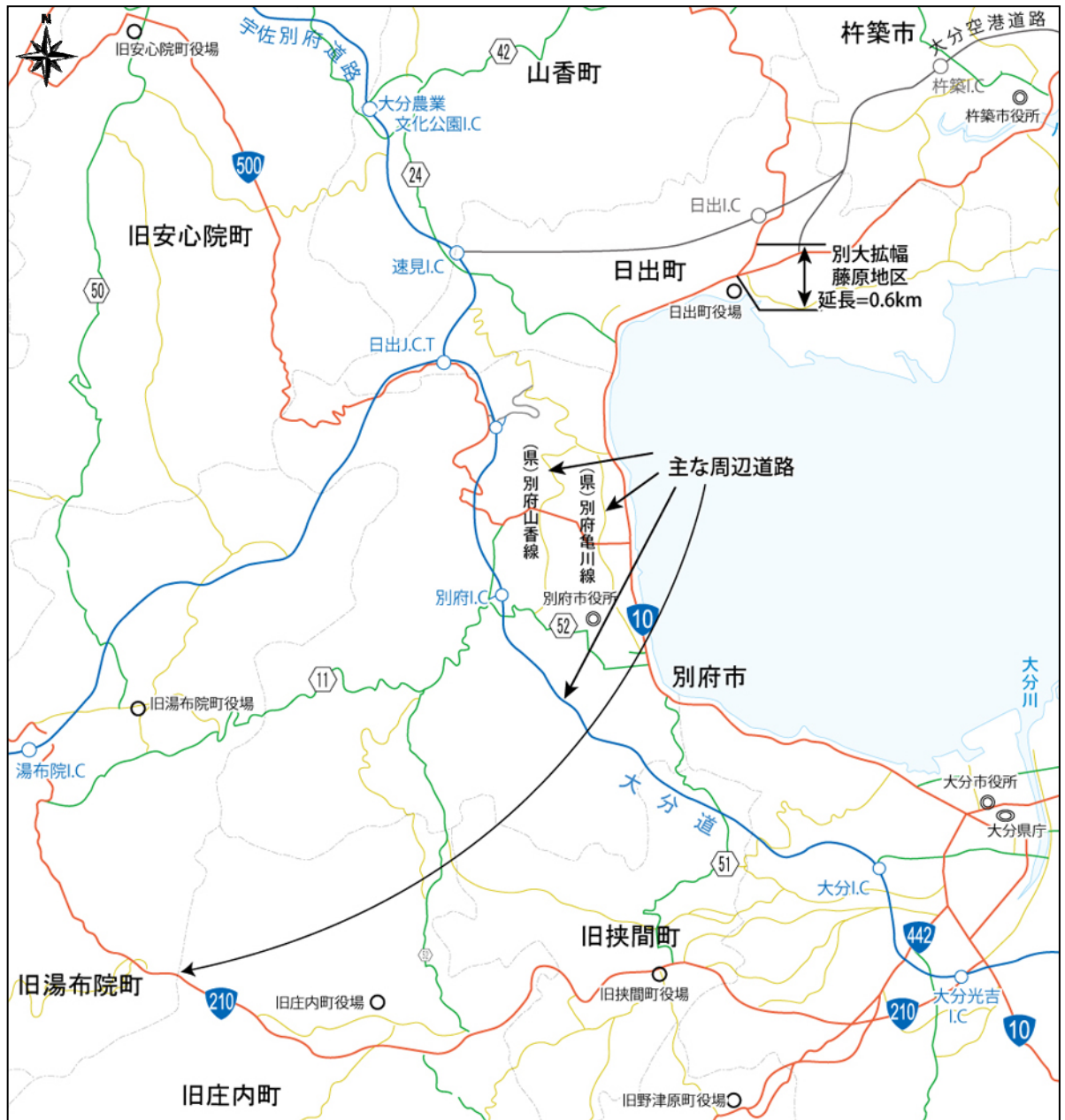
様式-3①

事業名：国道10号 別大拡幅

(推計時点 H42年)

(残事業)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 別大拡幅[藤原地区] (未供用区間) : 0.6km	交通量	[台/日]	22,600	22,600	
	走行時間	[分]	0.9	0.7	
	走行時間費用	[億円/年]	3.7	2.9	
①新設・改築道路 別大拡幅(既供用区間) : 22.0km	交通量	[台/日]	63,500	63,500	
	走行時間	[分]	48	48	
	走行時間費用	[億円/年]	553	553	
②主な周辺道路	県_別府 亀川線 : 2.9km	交通量	[台/日]	8,300	8,300
		走行時間	[分]	10	10
		走行時間費用	[億円/年]	15	15
	大分道 : 14.6km	交通量	[台/日]	18,300	18,300
		走行時間	[分]	9.7	9.7
		走行時間費用	[億円/年]	33	33
	県_別府 山香線 : 1.5km	交通量	[台/日]	10,600	10,600
		走行時間	[分]	4.4	4.4
		走行時間費用	[億円/年]	8.0	8.0
	国道210 号 : 3.2km	交通量	[台/日]	9,400	9,400
		走行時間	[分]	5.1	5.1
		走行時間費用	[億円/年]	8.7	8.7
③その他道路合計 : 3,982.1km	走行時間費用	[億円/年]	5,994	5,994	
			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 4,026.9km	走行時間短縮便益	[億円/年]	6,615	6,615	0.91



費用便益分析の条件

事業名: 国道10号 別大拡幅

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成23年	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input type="checkbox"/>
		複数時点での推計	<input checked="" type="checkbox"/> (H17、H42)
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>
		整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	いずれかのみ推計の場合		いずれかのみ推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H17センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>
		その他()	<input type="checkbox"/>
	開発交通量の考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>
		有	<input type="checkbox"/>
有の場合のみ		考慮した開発交通量(トリップ数) ()台トリップ/日 考慮した理由を記載	
配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の採択理由	小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax~Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線などが混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。		
	最終配分の速度	<input type="checkbox"/>	
	採用理由を記載		
その他()		<input type="checkbox"/>	

(3)

項目		チェック欄		
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
			採用した休日係数	() %
	休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載			
	災害等による通行止めの影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数	() 日
			採用した通行止め日数の考え方を記載	
とり止め交通を考慮する		<input type="checkbox"/>		
とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載				
冬期交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する	<input type="checkbox"/>		
	考慮する場合のみ	採用した冬期日数	() 日	
		採用した冬期日数の考え方を記載		
冬期の走行速度と交通容量の関係設定の考え方を記載				
交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>		
	その他 ()	<input type="checkbox"/>		
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>		
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input checked="" type="checkbox"/>		
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input type="checkbox"/>		
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する	<input type="checkbox"/>		
その他				

費用の現在価値算定表

				維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)			
箇所名: 国道10号 別大拡幅(事業全体)				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				0.24	22.6	5.37	
年次	年度	割引率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-13年目	S 36	7.1067	25.3	3.40	85.84		
-12年目	S 37	6.8333	26.1	3.40	80.26		
-11年目	S 38	6.5705	27.7	3.40	72.58		
-10年目	S 39	6.3178	29.3	3.40	65.87		
-9年目	S 40	6.0748	30.7	3.40	60.57		
-8年目	S 41	5.8412	32.4	3.40	55.10		
-7年目	S 42	5.6165	34.2	3.40	50.27		
-6年目	S 43	5.4005	36.0	3.40	45.85		
-5年目	S 44	5.1928	38.1	3.40	41.70		
-4年目	S 45	4.9931	40.7	6.37	70.37		
-3年目	S 46	4.8010	42.6	9.98	101.15		
-2年目	S 47	4.6164	45.5	10.90	99.49		
-1年目	S 48	4.4388	52.4	6.89	52.51		
供用開始年次	S 49	4.2681	62.5	8.69	53.40	1.28	7.87
1年目	S 50	4.1039	66.1	13.58	75.89	1.28	7.15
2年目	S 51	3.9461	71.7	7.20	35.68	1.28	6.34
3年目	S 52	3.7943	76.0	18.70	84.03	1.28	5.75
4年目	S 53	3.6484	79.2	33.65	139.52	1.28	5.31
5年目	S 54	3.5081	81.3	34.45	133.87	2.55	9.90
6年目	S 55	3.3731	86.4	34.50	121.22	2.55	8.95
7年目	S 56	3.2434	88.6	36.00	118.61	2.55	8.39
8年目	S 57	3.1187	89.6	36.80	115.28	3.59	11.24
9年目	S 58	2.9987	90.5	20.00	59.64	3.59	10.70
10年目	S 59	2.8834	92.3	5.67	15.93	4.34	12.20
11年目	S 60	2.7725	93.0	2.30	6.17	4.34	11.65
12年目	S 61	2.6658	94.6	3.80	9.64	4.34	11.01
13年目	S 62	2.5633	94.4	5.50	13.44	4.34	10.61
14年目	S 63	2.4647	94.9	2.60	6.08	4.34	10.15
15年目	H 1	2.3699	97.4	0.88	1.93	4.34	9.51
16年目	H 2	2.2788	99.6	1.46	3.01	4.34	8.94
17年目	H 3	2.1911	102.0	0.49	0.95	4.34	8.39
18年目	H 4	2.1068	103.4	7.78	14.26	4.34	7.96
19年目	H 5	2.0258	103.7	10.78	18.95	4.34	7.63
20年目	H 6	1.9479	103.6	13.27	22.46	4.34	7.35
21年目	H 7	1.8730	102.8	24.37	39.95	4.34	7.12
22年目	H 8	1.8009	102.3	23.00	36.44	4.34	6.88
23年目	H 9	1.7317	103.3	11.71	17.67	4.34	6.55
24年目	H 10	1.6651	102.8	39.67	57.83	4.34	6.33
25年目	H 11	1.6010	101.3	24.08	34.25	4.34	6.17
26年目	H 12	1.5395	99.7	27.85	38.70	4.34	6.03
27年目	H 13	1.4802	98.4	21.15	28.63	4.34	5.88
28年目	H 14	1.4233	96.6	42.70	56.62	4.34	5.76
29年目	H 15	1.3686	95.4	34.79	44.92	4.34	5.60
30年目	H 16	1.3159	94.4	21.91	27.49	4.64	5.82
31年目	H 17	1.2653	93.2	12.29	15.01	4.74	5.79
32年目	H 18	1.2167	92.5	31.51	37.30	4.74	5.61
33年目	H 19	1.1699	91.7	41.08	47.16	4.74	5.44
34年目	H 20	1.1249	91.2	37.95	42.12	4.81	5.34
35年目	H 21	1.0816	90.0	20.77	22.47	4.81	5.21
36年目	H 22	1.0400	90.0	19.78	20.57	4.93	5.13
37年目	H 23	1.0000	90.0	7.18	7.18	4.96	4.96
38年目	H 24	0.9615	90.0	5.73	5.51	4.99	4.80
39年目	H 25	0.9246	90.0	2.76	2.55	4.99	4.62
40年目	H 26	0.8890	90.0			5.11	4.55
41年目	H 27	0.8548	90.0			5.11	4.37
42年目	H 28	0.8219	90.0			5.11	4.20
43年目	H 29	0.7903	90.0			5.11	4.04
44年目	H 30	0.7599	90.0			5.11	3.89
45年目	H 31	0.7307	90.0			5.11	3.74
46年目	H 32	0.7026	90.0			5.11	3.59
47年目	H 33	0.6756	90.0			5.11	3.46
48年目	H 34	0.6496	90.0			5.11	3.32
49年目	H 35	0.6246	90.0	-130.78	-81.68	5.11	3.19
合計				682.32	2432.22	207.53	334.36
単純事業費計				813.10		207.53	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 国道10号 別大拡幅(残事業)

単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.21	0.60	0.13

年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-2年目	H 24	0.9615	90.0	5.73	5.51		
-1年目	H 25	0.9246	90.0	2.76	2.55		
供用開始年次	H 26	0.8890	90.0			0.12	0.11
1年目	H 27	0.8548	90.0			0.12	0.10
2年目	H 28	0.8219	90.0			0.12	0.10
3年目	H 29	0.7903	90.0			0.12	0.09
4年目	H 30	0.7599	90.0			0.12	0.09
5年目	H 31	0.7307	90.0			0.12	0.09
6年目	H 32	0.7026	90.0			0.12	0.08
7年目	H 33	0.6756	90.0			0.12	0.08
8年目	H 34	0.6496	90.0			0.12	0.08
9年目	H 35	0.6246	90.0			0.12	0.07
10年目	H 36	0.6006	90.0			0.12	0.07
11年目	H 37	0.5775	90.0			0.12	0.07
12年目	H 38	0.5553	90.0			0.12	0.07
13年目	H 39	0.5339	90.0			0.12	0.06
14年目	H 40	0.5134	90.0			0.12	0.06
15年目	H 41	0.4936	90.0			0.12	0.06
16年目	H 42	0.4746	90.0			0.12	0.06
17年目	H 43	0.4564	90.0			0.12	0.05
18年目	H 44	0.4388	90.0			0.12	0.05
19年目	H 45	0.4220	90.0			0.12	0.05
20年目	H 46	0.4057	90.0			0.12	0.05
21年目	H 47	0.3901	90.0			0.12	0.05
22年目	H 48	0.3751	90.0			0.12	0.05
23年目	H 49	0.3607	90.0			0.12	0.04
24年目	H 50	0.3468	90.0			0.12	0.04
25年目	H 51	0.3335	90.0			0.12	0.04
26年目	H 52	0.3207	90.0			0.12	0.04
27年目	H 53	0.3083	90.0			0.12	0.04
28年目	H 54	0.2965	90.0			0.12	0.04
29年目	H 55	0.2851	90.0			0.12	0.03
30年目	H 56	0.2741	90.0			0.12	0.03
31年目	H 57	0.2636	90.0			0.12	0.03
32年目	H 58	0.2534	90.0			0.12	0.03
33年目	H 59	0.2437	90.0			0.12	0.03
34年目	H 60	0.2343	90.0			0.12	0.03
35年目	H 61	0.2253	90.0			0.12	0.03
36年目	H 62	0.2166	90.0			0.12	0.03
37年目	H 63	0.2083	90.0			0.12	0.02
38年目	H 64	0.2003	90.0			0.12	0.02
39年目	H 65	0.1926	90.0			0.12	0.02
40年目	H 66	0.1852	90.0			0.12	0.02
41年目	H 67	0.1780	90.0			0.12	0.02
42年目	H 68	0.1712	90.0			0.12	0.02
43年目	H 69	0.1646	90.0			0.12	0.02
44年目	H 70	0.1583	90.0			0.12	0.02
45年目	H 71	0.1522	90.0			0.12	0.02
46年目	H 72	0.1463	90.0			0.12	0.02
47年目	H 73	0.1407	90.0			0.12	0.02
48年目	H 74	0.1353	90.0			0.12	0.02
49年目	H 75	0.1301	90.0	-0.64	-0.08	0.12	0.02
合計				7.85	7.98	6.00	2.38
単純事業費計				8.49		6.00	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
 このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

箇所名:国道10号 別大拡幅(事業全体)

便益の現在価値算定表

年次 (歳次)	総走行台車中の年次別伸び率 (北九州7ロウ)			GDP ネット	走行時間短縮便益(億円)			走行経費減少便益(億円)			現在価値			事故減少便益(億円) ③×(A)	現在価値 ③×(A)	合 計 便益合計 (①~③)	現在価値 割引率%
	乗用車種	小型貨物	普通貨物		① 計	① ×(A)	乗用車種	小型貨物	普通貨物	② 計	(A)×(2)	③					
年度	H23	4.2681	62.5	13.46	8.61	3.28	25.35	155.78	1.06	0.69	1.02	2.77	17.02	1.58	28.37	174.37	
供用開始年次	S 49	1.09113	1.04695	1.07453	66.1	14.69	21.13	151.59	1.16	0.72	1.07	2.95	16.46	0.28	30.36	169.59	
1年目	S 50	1.05546	1.12672	1.08156	71.7	15.50	10.15	146.30	1.22	0.81	1.20	3.24	16.04	0.30	33.06	163.82	
2年目	S 51	1.02000	1.11079	1.10535	76.0	17.08	11.28	146.76	1.34	0.90	1.34	3.58	16.11	0.33	36.58	164.34	
3年目	S 52	1.07186	1.02870	1.05531	79.2	18.31	11.60	142.37	1.44	0.93	1.37	3.75	15.53	0.44	38.43	159.34	
4年目	S 53	1.06500	1.04431	1.05727	81.3	32.76	21.01	8.35	63.12	21.38	2.15	5.28	20.53	1.10	67.69	263.02	
5年目	S 54	1.02713	1.00399	1.01859	86.4	33.65	21.09	8.38	63.12	22.180	2.16	5.34	18.78	1.02	68.76	241.59	
6年目	S 55	1.02320	0.99903	1.02139	88.6	34.43	21.07	8.37	63.88	210.45	2.16	5.38	17.73	0.97	69.55	229.15	
7年目	S 56	1.03473	0.99750	1.02139	89.6	41.77	25.19	10.65	77.61	243.12	2.67	6.28	19.67	0.97	84.20	263.76	
8年目	S 57	1.01474	1.01399	1.01448	90.5	42.39	25.54	10.90	78.73	234.77	2.71	6.37	18.99	0.94	85.41	254.70	
9年目	S 58	1.02069	1.00911	1.01664	92.3	72.89	42.22	19.67	134.78	378.95	2.89	10.92	30.71	0.63	146.34	411.43	
10年目	S 59	1.03868	1.01524	1.03055	93.0	75.71	42.87	19.97	138.55	371.73	2.94	11.18	29.99	0.85	150.37	403.45	
11年目	S 60	1.04039	1.03914	1.03985	94.6	78.77	44.55	20.75	144.06	365.37	3.05	11.62	29.47	0.71	156.36	396.55	
12年目	S 61	1.03883	1.03766	1.03833	94.4	81.83	46.22	21.53	149.58	365.55	4.14	12.06	29.48	0.70	162.34	396.73	
13年目	S 62	1.03738	1.03629	1.03691	94.9	84.89	47.90	22.31	155.10	382.53	4.29	12.50	29.23	0.72	169.33	393.45	
14年目	S 63	1.03603	1.03502	1.03560	97.4	87.94	49.58	23.09	160.62	351.73	4.45	12.95	28.35	0.75	174.31	381.72	
15年目	H 1	1.03478	1.03384	1.03437	98.6	91.00	51.26	23.87	166.13	342.10	4.60	13.39	27.57	0.78	180.30	371.26	
16年目	H 2	1.05111	1.00991	1.03344	102.0	95.65	51.76	24.11	171.53	331.62	4.84	13.71	26.51	0.80	186.04	359.68	
17年目	H 3	1.04862	1.00981	1.03235	103.4	100.30	52.27	24.35	176.93	324.44	5.07	14.03	25.73	0.83	191.79	351.69	
18年目	H 4	1.04637	1.00972	1.03134	103.7	104.96	52.78	24.58	182.32	320.55	5.31	14.35	25.24	0.85	197.53	347.99	
19年目	H 5	1.04431	1.00963	1.03039	103.6	109.61	53.29	24.82	187.72	317.65	5.54	14.68	24.84	0.88	203.27	343.98	
20年目	H 6	1.05009	0.98489	1.02444	102.8	115.10	52.48	24.45	192.03	314.88	5.82	14.82	24.30	0.90	207.74	340.66	
21年目	H 7	1.04770	0.98485	1.02386	103.3	120.59	51.68	24.07	196.34	311.07	6.08	14.96	23.70	0.92	212.22	336.23	
22年目	H 8	1.04553	0.98441	1.02309	103.3	126.08	50.87	23.70	200.65	302.72	6.38	15.10	22.78	0.94	216.69	326.92	
23年目	H 9	1.04355	0.98417	1.02277	102.8	131.57	50.07	23.32	204.96	298.78	6.66	15.24	22.21	0.97	221.16	322.40	
24年目	H 10	1.04173	0.98391	1.02227	101.3	137.06	49.26	22.95	209.27	297.66	6.93	15.38	21.87	0.99	225.63	320.94	
25年目	H 11	1.01320	0.98891	1.00533	99.7	138.87	48.72	22.69	210.27	292.22	7.02	15.37	21.36	0.99	226.64	314.97	
26年目	H 12	1.01303	0.98879	1.00520	98.4	140.68	48.17	22.44	211.28	286.04	7.12	15.37	20.81	1.00	227.65	308.20	
27年目	H 13	1.01296	0.98866	1.00519	96.6	142.49	47.62	22.18	212.29	281.51	7.21	15.37	20.38	1.00	228.66	303.22	
28年目	H 14	1.01270	0.98853	1.00524	95.4	144.30	47.08	21.93	213.30	275.40	7.30	15.37	19.84	1.01	229.68	296.54	
29年目	H 15	1.01254	0.98840	1.00522	94.4	155.29	46.87	23.05	227.21	285.05	8.09	16.61	20.84	1.01	244.23	306.41	
30年目	H 16	1.01238	0.98826	1.00519	93.2	159.28	46.84	22.13	230.25	281.33	7.97	16.00	19.55	0.99	246.34	300.99	
31年目	H 17	0.99764	0.99226	0.99672	92.5	158.90	46.46	22.06	229.42	271.59	7.95	15.94	18.87	0.99	245.45	290.57	
32年目	H 18	0.99763	0.99220	0.99671	91.7	158.52	46.08	21.99	228.59	262.47	7.94	15.88	18.24	0.99	244.56	280.81	
33年目	H 19	0.99762	0.99214	0.99670	91.2	160.40	46.35	22.02	230.77	256.17	7.88	15.84	17.58	0.98	246.68	273.84	
34年目	H 20	0.99762	0.99208	0.99669	90.0	160.02	47.97	21.95	229.93	248.69	7.86	15.78	17.07	0.98	245.79	265.84	
35年目	H 21	0.99761	0.99202	0.99668	90.0	159.78	47.61	21.88	229.28	246.31	7.81	15.71	16.34	0.97	245.05	254.85	
36年目	H 22	0.99761	0.99195	0.99667	90.0	166.53	54.32	10.94	231.79	231.79	7.90	13.49	13.49	0.33	245.61	245.61	
37年目	H 23	0.99760	0.99189	0.99665	90.0	167.03	53.78	11.20	232.45	223.50	8.00	13.66	13.14	0.23	246.35	236.86	
38年目	H 24	0.99760	0.99182	0.99664	90.0	166.63	53.78	11.17	231.57	214.11	7.98	13.61	12.59	0.23	245.41	226.91	
39年目	H 25	0.99759	0.99175	0.99663	90.0	166.45	53.39	11.21	231.05	205.41	7.97	13.58	12.07	0.33	244.97	217.78	
40年目	H 26	0.99758	0.99169	0.99662	90.0	166.05	52.95	11.17	230.17	196.75	7.95	13.53	11.56	0.33	244.03	208.60	
41年目	H 27	0.99758	0.99162	0.99661	90.0	165.65	52.51	11.13	229.29	188.45	7.93	13.48	11.08	0.33	243.09	199.80	
42年目	H 28	0.99757	0.99155	0.99660	90.0	165.65	52.51	11.13	229.29	188.45	7.93	13.48	11.08	0.33	243.09	199.80	
43年目	H 29	0.99757	0.99147	0.99659	90.0	153.66	38.74	0.95	193.25	152.73	7.86	10.29	8.13	0.34	203.98	161.20	
44年目	H 30	0.99756	0.99140	0.99657	90.0	153.29	38.41	0.95	192.54	146.31	7.84	10.25	7.79	0.43	203.23	154.44	
45年目	H 31	0.99755	0.99133	0.99656	90.0	152.91	38.08	0.95	191.84	140.18	7.82	10.22	7.46	0.43	202.48	147.95	
46年目	H 32	0.99811	0.99165	0.99922	90.0	152.54	37.75	0.95	191.13	134.29	7.80	10.18	7.15	0.43	201.73	141.74	
47年目	H 33	0.99810	0.99158	0.99922	90.0	152.25	37.43	0.95	190.53	128.72	7.79	10.14	6.85	0.43	201.10	135.86	
48年目	H 34	0.99810	0.99151	0.99922	90.0	151.96	37.12	0.94	189.92	123.37	7.77	10.11	6.57	0.43	200.46	130.22	
49年目	H 35	0.99810	0.99144	0.99922	90.0	151.67	36.80	0.94	189.32	118.25	7.76	10.08	6.29	0.43	199.82	124.81	
合計					5,623.11	2,068.89	750.46	8,442.45	283.33	134.57	169.76	587.67	933.86	25.66	9,055.79	1,341,605	

箇所名: 国道10号 別大拡幅(残事業)

便益の現在価値算定表

年次 (歳次)	年度 (歳次)	総走行台車中の年次別伸び率 (北九州70%)			GDP 70%	走行時間短縮便益(億円)			走行経費減少便益(億円)			事故減少便益(億円)			合計 (億円)					
		乗用車種	小型貨物	普通貨物		乗用車種	小型貨物	普通貨物	乗用車種	小型貨物	普通貨物	乗用車種	小型貨物	普通貨物						
供用開始年次	H 26	0.99758	0.99169	0.99682	0.99641	0.8890	0.23	0.06	0.08	0.37	0.33	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.07	0.06	0.45	0.40
1年目	H 27	0.99758	0.99162	0.99661	0.99640	0.8890	0.23	0.06	0.08	0.36	0.31	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.07	0.06	0.43	0.38
2年目	H 28	0.99757	0.99155	0.99660	0.99638	0.8890	0.23	0.06	0.08	0.36	0.30	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.07	0.05	0.45	0.37
3年目	H 29	0.99757	0.99147	0.99659	0.99637	0.7903	0.52	0.15	0.26	0.92	0.73	0.02	0.01	0.03	0.05	0.04	0.09	0.07	1.07	0.85
4年目	H 30	0.99756	0.99140	0.99657	0.99636	0.7599	0.52	0.15	0.25	0.92	0.70	0.02	0.01	0.03	0.05	0.04	0.09	0.07	1.07	0.81
5年目	H 31	0.99755	0.99133	0.99656	0.99634	0.7307	0.51	0.15	0.25	0.92	0.67	0.02	0.01	0.03	0.05	0.04	0.09	0.07	1.07	0.78
6年目	H 32	0.99755	0.99133	0.99656	0.99634	0.7026	0.51	0.15	0.25	0.91	0.64	0.02	0.01	0.03	0.05	0.04	0.09	0.07	1.06	0.75
7年目	H 33	0.99757	0.99158	0.99662	0.99707	0.6756	0.51	0.15	0.25	0.91	0.62	0.02	0.01	0.03	0.05	0.04	0.09	0.06	1.06	0.72
8年目	H 34	0.99810	0.99151	0.99652	0.99706	0.6496	0.51	0.15	0.25	0.91	0.59	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.06	1.06	0.69
9年目	H 35	0.99810	0.99144	0.99652	0.99705	0.6246	0.51	0.14	0.25	0.91	0.57	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.06	1.05	0.66
10年目	H 36	0.99809	0.99136	0.99652	0.99704	0.6006	0.51	0.14	0.25	0.90	0.54	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.06	1.05	0.63
11年目	H 37	0.99809	0.99129	0.99651	0.99704	0.5775	0.51	0.14	0.25	0.90	0.52	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.05	1.05	0.60
12年目	H 38	0.99809	0.99121	0.99651	0.99703	0.5553	0.51	0.14	0.25	0.90	0.50	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.05	1.04	0.58
13年目	H 39	0.99808	0.99113	0.99651	0.99702	0.5339	0.51	0.14	0.25	0.90	0.48	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.05	1.04	0.56
14年目	H 40	0.99808	0.99105	0.99651	0.99701	0.5134	0.50	0.14	0.25	0.89	0.46	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.05	1.04	0.53
15年目	H 41	0.99808	0.99097	0.99651	0.99700	0.4936	0.50	0.14	0.25	0.89	0.44	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.05	1.04	0.51
16年目	H 42	0.99338	0.99360	1.00074	0.99419	0.4746	0.51	0.14	0.26	0.91	0.43	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.04	1.06	0.50
17年目	H 43	0.99333	0.99356	1.00074	0.99416	0.4564	0.51	0.14	0.26	0.91	0.41	0.02	0.01	0.03	0.05	0.03	0.09	0.04	1.05	0.48
18年目	H 44	0.99329	0.99352	1.00074	0.99412	0.4388	0.51	0.14	0.26	0.90	0.40	0.02	0.01	0.03	0.05	0.02	0.09	0.04	1.05	0.46
19年目	H 45	0.99324	0.99348	1.00074	0.99409	0.4220	0.50	0.14	0.26	0.90	0.38	0.02	0.01	0.03	0.05	0.02	0.09	0.04	1.04	0.44
20年目	H 46	0.99320	0.99343	1.00074	0.99406	0.4057	0.50	0.14	0.26	0.89	0.36	0.02	0.01	0.03	0.05	0.02	0.09	0.04	1.04	0.42
21年目	H 47	0.99315	0.99339	1.00074	0.99402	0.3901	0.50	0.13	0.26	0.89	0.35	0.02	0.01	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.03	0.40
22年目	H 48	0.99310	0.99335	1.00074	0.99398	0.3751	0.49	0.13	0.26	0.88	0.33	0.02	0.01	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.03	0.39
23年目	H 49	0.99305	0.99330	1.00074	0.99395	0.3607	0.49	0.13	0.26	0.88	0.32	0.02	0.01	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.02	0.37
24年目	H 50	0.99301	0.99326	1.00074	0.99391	0.3468	0.49	0.13	0.26	0.88	0.30	0.02	0.01	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.02	0.35
25年目	H 51	0.99296	0.99321	1.00074	0.99387	0.3335	0.48	0.13	0.26	0.87	0.29	0.02	0.00	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.01	0.34
26年目	H 52	0.99291	0.99316	1.00074	0.99384	0.3207	0.48	0.13	0.26	0.87	0.28	0.02	0.00	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.01	0.32
27年目	H 53	0.99286	0.99312	1.00074	0.99380	0.3083	0.47	0.13	0.26	0.87	0.27	0.01	0.00	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.00	0.31
28年目	H 54	0.99280	0.99307	1.00074	0.99376	0.2965	0.47	0.13	0.26	0.86	0.26	0.01	0.00	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03	1.00	0.30
29年目	H 55	0.99275	0.99302	1.00074	0.99372	0.2851	0.47	0.13	0.26	0.86	0.24	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.09	0.02	0.99	0.28
30年目	H 56	0.99270	0.99297	1.00074	0.99368	0.2741	0.46	0.13	0.26	0.85	0.23	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.09	0.02	0.99	0.27
31年目	H 57	0.99265	0.99292	1.00074	0.99364	0.2636	0.46	0.13	0.26	0.85	0.22	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.99	0.26
32年目	H 58	0.99259	0.99287	1.00073	0.99360	0.2534	0.46	0.12	0.26	0.85	0.21	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.98	0.25
33年目	H 59	0.99254	0.99282	1.00073	0.99356	0.2437	0.45	0.12	0.26	0.84	0.20	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.98	0.24
34年目	H 60	0.99248	0.99277	1.00073	0.99352	0.2343	0.45	0.12	0.26	0.84	0.20	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.97	0.23
35年目	H 61	0.99242	0.99272	1.00073	0.99347	0.2253	0.45	0.12	0.26	0.83	0.19	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.97	0.22
36年目	H 62	0.99236	0.99266	1.00073	0.99343	0.2166	0.44	0.12	0.26	0.83	0.18	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.96	0.21
37年目	H 63	0.99231	0.99261	1.00073	0.99339	0.2083	0.44	0.12	0.26	0.82	0.17	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.96	0.20
38年目	H 64	0.99225	0.99255	1.00073	0.99334	0.2003	0.44	0.12	0.26	0.82	0.16	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.95	0.19
39年目	H 65	0.99219	0.99250	1.00073	0.99330	0.1926	0.43	0.12	0.26	0.82	0.16	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.95	0.18
40年目	H 66	0.99212	0.99244	1.00073	0.99325	0.1852	0.43	0.12	0.26	0.81	0.15	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.02	0.94	0.17
41年目	H 67	0.99206	0.99238	1.00073	0.99321	0.1780	0.43	0.12	0.26	0.81	0.14	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.94	0.17
42年目	H 68	0.99200	0.99232	1.00073	0.99316	0.1712	0.42	0.12	0.26	0.80	0.14	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.93	0.16
43年目	H 69	0.99193	0.99227	1.00073	0.99312	0.1646	0.42	0.11	0.26	0.80	0.13	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.93	0.15
44年目	H 70	0.99187	0.99220	1.00073	0.99307	0.1583	0.42	0.11	0.26	0.80	0.13	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.92	0.15
45年目	H 71	0.99180	0.99214	1.00073	0.99302	0.1522	0.41	0.11	0.27	0.79	0.12	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.92	0.14
46年目	H 72	0.99173	0.99208	1.00073	0.99297	0.1463	0.41	0.11	0.27	0.79	0.12	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.91	0.13
47年目	H 73	0.99166	0.99202	1.00073	0.99292	0.1407	0.41	0.11	0.27	0.78	0.11	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.91	0.13
48年目	H 74	0.99159	0.99195	1.00073	0.99287	0.1353	0.40	0.11	0.27	0.78	0.11	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.08	0.01	0.90	0.12
49年目	H 75	0.99159	0.99195	1.00073	0.99287	0.1301	0.40	0.11	0.27	0.78	0.10	0.01	0.00	0.03	0.05	0.01	0.07	0.01	0.90	0.12
合計						22.82	6.28	12.45	41.54	16.19	4.24	1.56	0.24	2.52	0.97	4.24	1.71	48.31	18.86	

全体事業費内訳表

路線名	箇所名	車線数	延長
国道10号	別大拡幅	4・6	22.6km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					53,658	
改良費					38,455	
		土工	m3	877,943	2,636	掘削(22,920m3)、盛土(855,023m3)
		軟弱地盤改良工	m3	277,507	1,614	
		法面工	m ²	2,280	3	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	16,872	直立擁壁、フレア擁壁、L型擁壁、フレア擁壁等
		管渠工	m			
		函渠工	m	1,500	315	
		排水工	m	48,964	1,528	
		中央分離帯工	m	21,400	1,892	
		雑工	式	1	13,595	消波ブロック、構造物取壊し、標識撤去等
橋梁費					6,675	
		100m以上	m	295	949	鋼橋 2橋
		100m未満	m	415	5,726	鋼橋 18橋、PC橋 3橋、横断歩道橋
トンネル費						
		NATM	m			
		シールド	m			
IC・JCT費						
		IC	箇所			
		JCT	箇所			
舗装費					6,203	
		車道舗装	m ²	448,800	5,627	
		歩道舗装	m ²	134,613	576	
付帯施設費					2,325	
		交通管理施設工	式	1	2,325	通信管路工、防護柵工、歩車道境界ブロック、区画線等
		遮音壁	m			
②用地及補償費					20,713	
用地費			m ²		13,078	
		宅地	m ²	243,752	12,131	
		田畑	m ²	75,000	946	
		山林・原野	m ²			
		その他	m ²	30	1	
補償費			式	1	7,635	
③間接経費					8,929	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等
全体事業費					83,300	

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

残事業費内訳表

路線名	箇所名	車線数	延長
国道10号	別大拡幅	4	0.6km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費						607
改良費						271
		土工	m ³	36,000	82	掘削(22,586m ³)、盛土(13,080m ³)
		軟弱地盤改良工	m ³	5,600	32	
		法面工	m ²	1,090	1	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	34	L型擁壁、大型ブロック積み、ブロック積み
		管渠工	m			
		函渠工	m			
		排水工	m	1,833	52	
		中央分離帯工	m			
		雑工	式	1	70	構造物取壊し、標識撤去
橋梁費						91
		100m以上	m			
		100m未満	m	48	91	横断歩道橋
トンネル費						
		NATM	m			
		シールド	m			
IC・JCT費						
		IC	箇所			
		JCT	箇所			
舗装費						164
		車道舗装	m ²	13,500	125	
		歩道舗装	m ²	6,213	39	
付帯施設費						82
		交通管理施設工	式	1	82	防護柵工、歩車道境界ブロック、区画線等
		遮音壁	m			
②用地及補償費						67
用地費			m ²		63.9	
		宅地	m ²	2,400	63	
		田畑	m ²			
		山林・原野	m ²			
		その他	m ²	30	1	
		補償費	式	1	3	
③間接経費				式	1	215
全体事業費						888

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

全事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
国道10号	別大拡幅	4.6	22.6km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	22.6	3,334	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	18,457	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			21,791	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

残事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
国道10号	別大拡幅	4	0.6km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	0.6	101	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	529	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			630	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。